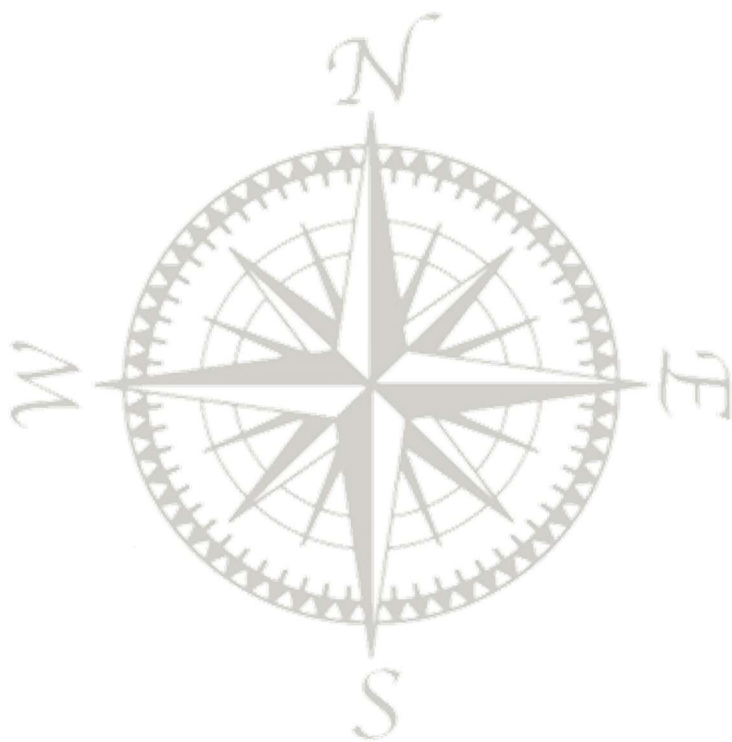




第4次上尾市 子どもの読書活動推進計画

読み聞かせのまち あげお
あげお子ども読書プラン

(案)

令和8（2026）年度～12（2030）年度

上尾市教育委員会



読み聞かせのまち あげお

★計画書内の表示等について★

『 』 引用する計画書や参考文献、報告書の名称は、『 』で表示します。

「 」 引用文や独特な言い回しなどについては、「 」で表示します。

（ ） 必要と思われる用語等の補足等については、（ ）で表示します。

「＊」 文中の用語については、適宜「＊」を付し、巻末に「用語解説」を設けます。

※補足の必要な内容は、適宜脚注（番号は上付アラビア数字で示す）を各頁下部に挿入します。

目次

第1部 計画の基本的な考え方	1
第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の目的	1
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 策定方針	1
(4) 計画の期間・対象	2
2 子供の読書に関する国及び県の動向	2
(1) 国の動向	2
(2) 県の動向	2
3 第3次計画期間における上尾市の現状と課題	3
(1) 実施状況	3
(2) 現状と課題	7
第2章 基本方針	11
1 推進体制の整備・充実	11
2 発達段階ごとの効果的な取組を推進	11
3 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実	11
4 啓発と情報提供の充実	11
第2部 推進のための具体的な取組	13
第1章 推進体制の整備・充実	13
1 子どもの読書活動支援センターと図書館の役割	13
(1) 支援センター	13
(2) 図書館	15
2 子供の読書に関わる関係機関との連携	15
3 図書館・学校・学校図書館の連携	15
4 読み聞かせボランティア相互の情報交換	15
第2章 発達段階ごとの効果的な取組を推進	17
発達段階に応じた取組の推進	17
(1) 発達段階に応じた特徴	17
(2) 発達段階に応じた取組	18
第3章 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実	19

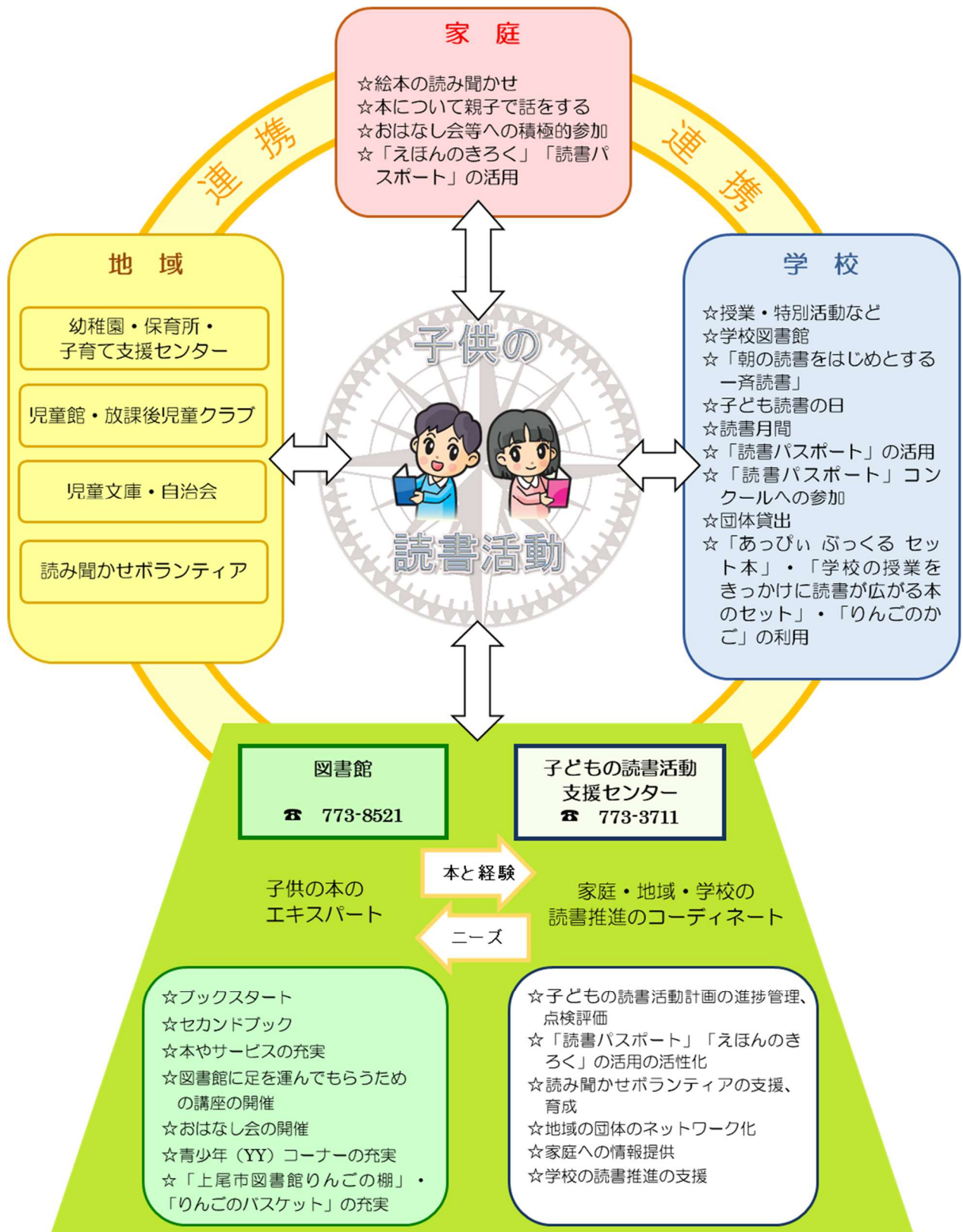
1	図書館における取組.....	19
	(1) 図書館の役割	19
	(2) 資料等の充実	19
	(3) 利用者に応じたサービス	20
	(4) 読書活動に支援が必要な子供へのサービス	21
2	家庭における取組	22
3	地域における取組と図書館との連携	23
	(1) 幼稚園・保育所	23
	(2) 児童館	23
	(3) 放課後児童クラブ・放課後子ども教室 ^{*23}	23
	(4) 児童文庫・自治会	23
	(5) 読み聞かせボランティア	23
4	学校における取組	24
	(1) 学校の役割	24
	(2) 学校図書館	24
	(3) 図書資料の充実	24
	(4) 読書活動	25
5	家庭・地域・学校をつなぐ取組	25
	(1) 読書パスポート	25
	(2) えほんのきろく	26
	(3) 読書習慣形成への影響	26
第4章 子供の読書活動に関する啓発と情報提供の充実		28
1	啓発活動の充実	28
	(1) 「子ども読書の日」の取組	28
	(2) 読みたい本を見つける機会を増やす取組	28
2	情報提供の充実	29
	(1) 市広報誌、ホームページ、フェイスブック、X	29
資 料 編		31
1	子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体 文部科学大臣表彰	i
2	埼玉・教育ふれあい賞	ii
3	参考資料	iii
4	用語解説	v
5	上尾市「読書についてのアンケート」の調査結果	viii

子供の読書活動の推進

段階 役割	乳幼児期	小学生期	中学生・高校生(青少年)期
図書館 子どもの読書活動支援センター	生涯にわたる読書活動の推進		
	えほんのじかん		青少年向けサービスの充実
	ブックスタート あかちゃんおはなし会	セカンドブック （「読書パスポート」の配布・活用）	青少年の読書率の向上に向けた施策の検討
	魅力ある読書イベントの実施		
	「えほんのきろく」の配布		
	「おやこでえほんサロン」		
	各年齢層に合ったブックリストの作成・配布		
	「上尾市図書館りんごの棚」		
ボランティア 読み聞かせ等	図書館・児童館等での絵本の読み聞かせ・おはなし会		
	学校等での出張おはなし会、授業での代読など		
	「えほんのきろく」・「読書パスポート」事業に協力		
家庭	読み聞かせ		
	えほんやわらべうたを楽しむ	親子で読んだ本のお話をする	
	「えほんのきろく」・「読書パスポート」の活用		親子ともに読書をする
幼稚園・保育園 子育て支援センター	本とのふれあい		
	絵本の読み聞かせ		
	「えほんあっぱい ぶっくるセット本」・団体貸出本の活用		
学校		読 み 聞 か せ	
		家 庭 へ の 啓 発	
		各教科における図書の活用	
		読書指導と推薦図書の紹介	
		「朝の読書をはじめとする一斉読書」	
		「読書パスポート」の活用	
		「あっぱい ぶっくるセット本」・団体貸出本の活用	
		「学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセット」の活用	
児童館 児童クラブ 放課後児童クラブ	本とのふれあい		
	絵本の読み聞かせ		
	おはなし会		
	「えほんのきろく」・「読書パスポート」事業に協力		

※本計画の対象年齢は0～18歳です。

子供の読書活動の支援体制



第1部 計画の基本的な考え方

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の目的

(1) 背景

現代では、テレビ、インターネット、スマートフォン等の多種多様なメディアの拡大、発展に子供¹たちの興味が引き付けられています。このような環境下で読書習慣の未形成な子供たちは増加し、「読書離れ」が進んでいます。

このような社会情勢の中、平成13（2001）年に『子どもの読書活動の推進に関する法律』（以下、「推進法」という。）が公布・施行され、同法9条第2項で「子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない」と規定されました。

上尾市教育委員会では、推進法の趣旨を踏まえ、平成23（2011）年3月に『上尾市子どもの読書活動推進計画（あげお子ども読書プラン）』（以下、「第1次計画」という。）を策定し、翌24（2012）年には子どもの読書活動支援センター（以下、適宜「支援センター」という。）を設置して、家庭・地域・学校が連携して社会全体で子供の読書活動を推進していく環境「読み聞かせのまち あげお」を目指した様々な施策に着手しました。以降、社会環境の変化を汲み取りつつ、『第2次上尾市子どもの読書活動推進計画』（平成28（2016）年3月。以下、「第2次計画」という。）、『第3次上尾市子どもの読書活動推進計画』（令和3（2021）年3月。以下、「第3次計画」という。）と計画の改定を重ねてきました。

(2) 目的

子供の読書活動は、幼児期から読書習慣を身につけることで、言葉や知識を習得し、円滑なコミュニケーション力を育みます。また、読書を通じて感性や表現力、創造力、思考力が養われ、物語に触れることで異なる考え方への寛容さや文化的な多様性への理解が深まります。このような力を身につけるためには、年齢や興味に応じた読書情報の提供や読書環境の整備など、すべての子供があらゆる場面で自主的に読書に取り組める環境づくりを進めていく必要があります。本計画は、その目的を達成するために策定するものです。

(3) 策定方針

第3次計画を引継ぐこととなる『第4次上尾市子どもの読書活動推進計画』（以下、「第4次計画」又は「本計画」という。）では、これまでの計画を踏襲しながらも、成果と課題を踏まえ、適宜見直しを図ります。

また、本計画が推進法第9条第2項に基づく計画であることに鑑み、国の第5次『子どもの

¹ 「子供」の表記については、文部科学省の公用文の表記において漢字の「子供」に統一する方針としているため、本計画の文中では、「こども」や「子ども」ではなく、原則漢字表記の「子供」に統一します。ただし、法令又は固有名詞として使用されている場合は、その表記に従います（例：「子どもの読書活動推進計画」など）。

読書活動の推進に関する基本的な計画』（令和5（2023）年3月。以下、「国の第5次推進計画」という。）で示された次の4つの視点から新たに具体的な施策を加え、「読み聞かせのまちあげお」の実現を目指します。

- ① 不読率^{*1}の低減
- ② 多様な子供たちの読書機会の確保
- ③ デジタル社会に対応した読書環境の整備
- ④ 子供の視点に立った読書活動の推進

（4）計画の期間・対象

本計画の期間は、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間とし、『上尾市総合計画』や『第4次上尾市図書館サービス計画』との整合性を図るとともに、社会情勢の変化などに応じて適宜、見直しを図ります

なお、計画における子供の対象年齢は、おおむね18歳以下²とします。

2 子供の読書に関する国及び県の動向

（1）国の動向

文部科学省は、令和4（2022）年に「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」を設置し、図書館・学校図書館の現状や課題を把握・分析し、運営の充実に向けた検討を始めています。

また、先述のとおり、令和5（2023）年3月には国の第5次推進計画を策定し、この中で4つの基本的方針を掲げて、全ての子供たちが読書活動の恩恵を受けられるよう様々な施策に取り組んでいます。

（2）県の動向

埼玉県では、国の第5次推進計画を踏まえ、令和6（2024）年7月に『埼玉県子供読書活動推進計画（第5次）』を策定し、県内全ての子供たちが読書に親しみ、読書を身に付けていけるよう、県独自の施策として取り組んでいます。

² 推進法第2条では、子供は概ね18歳以下と定義されている。

3 第3次計画期間における上尾市の現状と課題

(1) 実施状況

第3次計画の計画期間（計画策定年度を除く）における、子供の読書活動推進に関する関係各課³の取組の実施状況は以下の通りです。

① 推進体制の整備・充実

主体	実施状況＜令和3年度から令和6年度まで＞
子どもの読書活動支援センター 家庭・地域・学校と図書館の連携がスムーズに進むように、コーディネートを行う	○家庭／子供や青少年向け読書イベントを開催 ※おはなし会除く 令和3年度 年間5回 参加者 560人 令和4年度 年間3回 参加者 48人 令和5年度 年間5回 参加者 75人 令和6年度 年間4回 参加者 53人 ○家庭／保護者向け読書講演会や講座を開催 令和3年度 年間1回 参加者 6人 令和4年度 年間1回 参加者 11人 令和5年度 年間1回 参加者 12人 令和6年度 年間2回 参加者 17人 ○家庭・地域／本に関する情報を収集・提供 ・「おやこでえほんサロン」 年間11～12回程開催 ・読書相談を実施し、子供の年齢にあった本の情報を提供 ・読み聞かせボランティアに向けて、一般向けには貸し出ししていない本を取り揃え、読み聞かせ用に貸し出し ○地域・学校／読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催 ＜ボランティア向け 主な事業＞ 令和3年度 年間0回 参加者 0人 令和4年度 年間3回 参加者 14人 令和5年度 年間5回 参加者 18人 令和6年度 年間3回 参加者 44人 ＜学校応援団*2へ講師派遣＞ 令和3年度 年間1回 参加者 10人 令和4年度 年間1回 参加者 10人 令和5年度 年間1回 参加者 10人 令和6年度 年間2回 参加者 25人 ○地域／家庭児童文庫・子供の読書活動推進団体への支援 ＜文庫活動＞ ・シラコバト団地自治会・おひさま文庫・富士見団地自治会児童図書・原市団地自治会（令和6年度～）

³ 平方幼稚園については、令和4（2022）年3月31日に教育課程を終了したため、令和3年度までの実績。

主体	実施状況＜令和 3 年度から令和 6 年度まで＞
子どもの読書活動 支援センター	<読書活動推進団体> ・ 児童文学朗読会実行委員会
	○地域・学校／あっぱい ぶっくるセット本事業の円滑な運営 <えほんあっぱい ぶっくるセット本>平方幼稚園・保育所
	令和 3 年度 年間 70 回 2,100 冊
	令和 4 年度 年間 65 回 1,950 冊
	令和 5 年度 年間 65 回 1,950 冊
家庭・地域・学校と 図書館の連携がスム ーズに進むように、 コーディネートを行 う	令和 6 年度 年間 60 回 1,800 冊
	<あっぱい ぶっくるセット本>小・中学校
	令和 3 年度 年間 132 回 9,240 冊
	令和 4 年度 年間 132 回 9,240 冊
	令和 5 年度 年間 132 回 9,240 冊
	令和 6 年度 年間 132 回 9,240 冊
	○学校／司書教諭・学校図書館支援員*3.研修 <学校図書館支援員研修>
	・ 年間 5 回～8 回開催
	○家庭・地域・学校／「えほんのきろく」「読書パスポート」の活用
	・ 子供イベント、講座、おはなし会、「おやこでえほんサロン」など で、「えほんのきろく」、「読書パスポート」を活用

② 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

主体	実施状況＜令和 3 年度から令和 6 年度まで＞
図書館	○資料の充実
	・ 絵本、読み物や調べ学習に役に立つ本を最新出版中心に収集
	＜あかちゃんおはなし会＞
	令和 3 年度 7 人
	令和 4 年度 156 人
	令和 5 年度 266 人
	令和 6 年度 211 人
	＜えほんのじかん＞
	令和 3 年度 30 人
	令和 4 年度 318 人
令和 5 年度 522 人	
令和 6 年度 612 人	
＜おはなし会＞	
令和 3 年度 0 人(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	
令和 4 年度 456 人	
令和 5 年度 887 人	
令和 6 年度 885 人	
○図書館や本に興味を持てるように読み聞かせ・読書イベントなど児童向けイベントの開催	
・ 「子ども読書の日」*4.に併せたイベント、夏休み期間中の体験図書館員、図書館まつり、クリスマス会などの実施	

主体	実施状況＜令和3年度から令和6年度まで＞
図書館	○青少年サービス*5.の向上 ・ テーマ展示による青少年が本を手取るきっかけづくり ・ 『Next Generation』を年3回発行。令和3年度からカラー化し、11中学校で全校配布を実施 ・ 上尾駅前分館に青少年（ＹＹ）コーナーの設置。駅を利用する中高生への本の提供機会の増加 ・ 市内高校と連携した「高校生のおはなし会」・「ティーンズ読書会」などのイベント実施（図書館まつり） ○図書利用に障害のある子供へのサービス ・ 障害のある子供やその保護者、教員が必要とする資料の収集 ・ 外国語が併記されている絵本、知識の本の購入 ・ 「上尾市図書館りんごの棚*6.」の設置（図書館本館・駅前分館） ○セカンドブック事業 ・ 図書館・学校・読み聞かせボランティアと連携し、新1年生に「読書パスポート」を配布 令和3年度 1,848人 令和4年度 1,768人 令和5年度 1,761人 令和6年度 1,726人 ・ 読書パスポートコンクールの実施、優秀作品の表彰
図書館 ・健康増進課	○ブックスタート事業*7.（月2回） 令和3年度 1,463人 令和4年度 1,473人 令和5年度 1,433人 令和6年度 1,372人
児童館・放課後児童クラブ*8. （青少年課）	○子供が読書に親しむ環境づくり ＜児童館アッピーランド・こどもの城＞ ・ 青少年育成推進員によるおはなし会の実施 ボランティアによるおはなし会、手作り紙芝居の読み聞かせ ＜放課後児童クラブ＞ ・ 団体貸出*9.・図書リサイクル*10.などの活用により、図書を充実
市立幼稚園・保育所（保育課）・子育て支援センター	○市立幼稚園・保育所（保育課）・子育て支援センター内の図書冊数、内容の充実 ＜平方幼稚園・保育所・子育て支援センター＞ ・ 絵本の購入や図書館のリサイクル本などを利用し、冊数・内容を充実した ○保護者に対する絵本読み聞かせの啓発・子供が絵本に親しむ環境づくり ＜平方幼稚園・保育所・子育て支援センター＞ ・ 保育室内の図書コーナーの拡充・多くの絵本に触れられる環境整備や、貸出冊数の増加をすることにより保護者と一緒に家庭でも絵本に親しめる環境づくり

主体	実施状況＜令和3年度から令和6年度まで＞
市立幼稚園・ 保育所（保育課）・子育て支援センター	＜幼稚園＞ ・「えほんあっぴいぶっくるセット本」の貸出や読み聞かせ ・様々なジャンルの図書への興味・関心を広げる ＜保育所＞ ・懇談会やクラスだよりなどを活用し、絵本の良さや大切さ等を啓発 ・絵本の貸出コーナーの設置 ・「えほんあっぴいぶっくるセット本」の貸出 ＜子育て支援センター＞ ・月2回程度、絵本・紙芝居・パネルシアター等を楽しむ講座「みんなのおはなし」の開催 ・年2回、支援センターとのコラボ「みんなのおはなし」を開催 ・月齢別で開催する各種講座や企画等で、読み聞かせを実施 ・交流室内に読み聞かせの効果等を掲示し、読み聞かせの大切さ等の周知
学校・指導課 ・教育総務課	○学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・充実 ＜学校・指導課＞ ・各小・中学校の教育課程において、学校図書館教育全体計画及び年間指導計画を作成し、各教科の指導計画との関連を検討 ○司書教諭、学校図書館支援員が中心となり、計画的な図書資料の整備・更新・充実、学校図書館のスペース拡張の検討、書架の購入 ＜教育総務課＞ ・計画的な図書の購入等 ・各校の工夫による書架の並び替えや配架の変更（学校） ・計画的な書架整備 ○司書教諭等研修会の充実 ＜指導課＞ ・学校図書館システムの操作方法等の確認、調べ学習等における効果的なアプリケーションの紹介と使用方法 ・学校図書館支援員研修会と合同で実施し、司書教諭と学校図書館支援員の連携について研修 ○学校図書館支援員の研修会の充実 ＜指導課＞ ・上尾市図書館及び支援センターと連携し、学校図書館支援員の技能向上に関する実践的な研修（本の選書・レファレンスや、ブックトーク^{*11}の仕方、読書の連想マップ作り・読み聞かせの仕方・ビブリオバトル^{*12}の仕方等） ○学校図書館支援員の増員の要望 ＜指導課＞ ・毎年支援員増員の要望

主体	実施状況＜令和3年度から令和6年度まで＞
学校・指導課 ・教育総務課	○「子ども読書の日」に関する取組の充実・周知 ＜指導課＞ - ポスターの掲示、読み聞かせ、学校図書館利用ガイダンスなど各校で工夫された取組の実施 ○読書パスポートコンクールへ参加 ＜学校＞ - 市内小学校22校で取り組み

③ 啓発と情報提供の充実

主体	実施状況＜令和3年度から令和6年度まで＞
図書館・ 支援センター 子供と本を結び付けるため図書館が薦める図書の情報を発信する	○各種パンフレット - ブックリストの内容の見直しや新たな資料の整備など、より使いやすく親しみのあるものを作成 ○市広報紙 「図書館へようこそ」や「子どもの読書活動支援センター あっぴいぶっくる」コーナーでの周知、主催講座の情報発信 ○図書館ホームページ・「読み聞かせのまちあげお上尾市図書館」フェイスブック・「子どもの読書活動支援センター」X（旧：ツイッター） - 講座や本の情報を即時に提供できるようSNSを活用

（2）現状と課題

第3次計画期間の実施状況の成果をふまえ、現状と課題については次のとおりになります。

① 高校生の不読率と図書館の利用

全国学校図書館協議会の調査⁴によると、高校生の不読率は令和6（2024）年度で48.3%と、推進法制定時の平成13（2001）年の67.0%からは減少しているものの、依然として高い水準にあります。平均読書冊数も2冊未満で推移⁵しており、大きな改善は見られません。

第4次計画策定にあたって実施した「読書についてのアンケート⁶」では、本市の高校生の不読率は47%と全国平均よりやや低い傾向が見られました。しかし、読書の場として学校図書館や市立図書館を利用する割合はわずか10%にとどまり、多くは自宅や教室で読書をしていることが分かりました。

⁴ 『第69回学校読書調査』（令和6（2024）年公表）は、6月第1・2週に全国の小学生（4～6年生）3,308人、中学生（1～3年生）3,496人、高校生（1～3年生）4,604人を対象に実施された調査で、対象月は5月の1か月間。

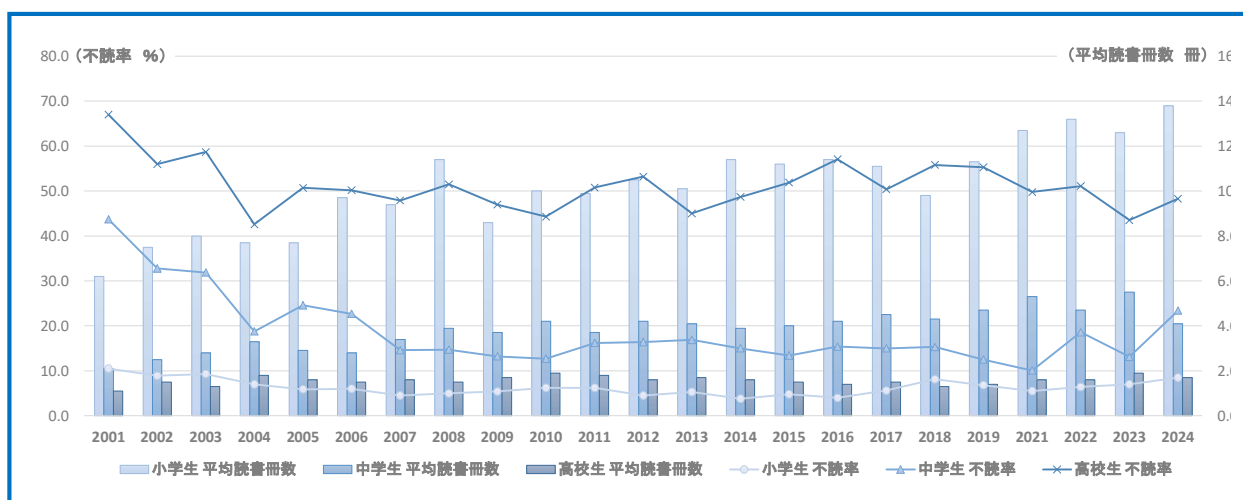
⁵ 高校生が1か月に読んだ本の平均冊数は、2000年以降、1度も2冊を超えたことがない。

⁶ 令和7（2025）年6月、市内の小・中・高校生および二十歳のつどい代表者を対象に実施。詳細は巻末資料に掲載。

この状況を踏まえ、図書館としては高校生がより気軽に利用できる環境づくりが求められます。例えば、興味を引くテーマ展示や、目につきやすいレイアウトの工夫、個々の関心に応じた選書の充実が必要です。また、SNS やポスターなどを活用した情報発信により、図書館の魅力を積極的に伝えることも重要です。

さらに、読書好きな高校生には読書会やワークショップなどのイベントを通じて読書の幅を広げる機会を提供し、勉強や部活動で来館が難しい生徒には電子書籍の充実を図ることで、時間や場所にとらわれない読書環境を整えることが求められます。

加えて、読書についてのアンケートを継続的に実施し、傾向を分析するとともに、本市独自の「読書パスポート」事業が青年期の不読率低減に効果を発揮しているかどうかの検証も重要です。



出典：『第69回学校読書調査（2024年）』（全国図書館協議会）を基に作成

表1 子供の不読率・平均読書冊数*13の推移

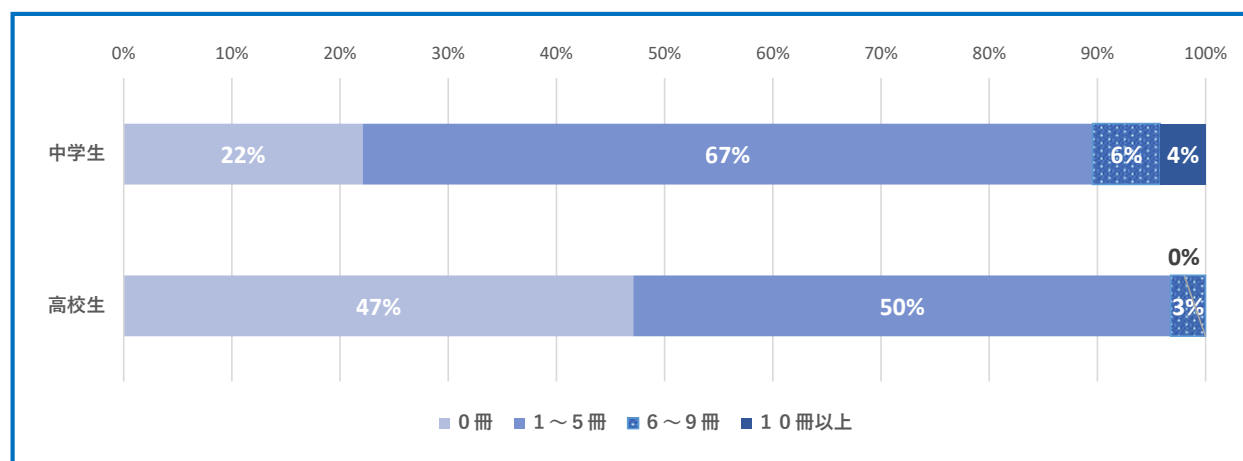


表2 「ここ1か月で読んだ本の冊数」－読書についてのアンケートより－

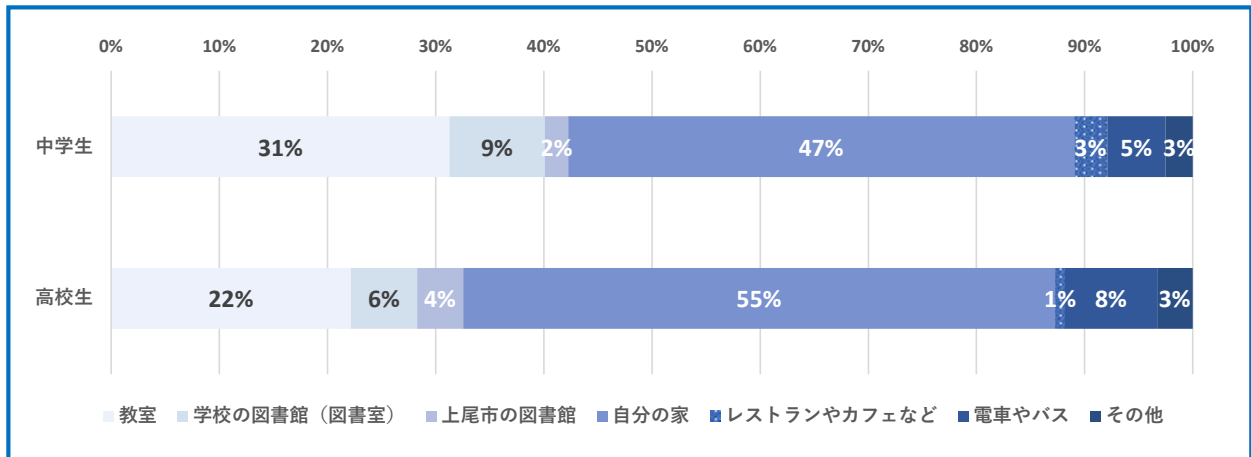


表3 「読書をする場所」－読書についてのアンケートより－

② 「えほんのじかん」の実施時間の検討

現在、「えほんのじかん」は、本館にて火曜日に実施していますが、参加する子供が低年齢化している傾向があります。今後は、土曜日・日曜日の開催も視野に入れ、対象となる年齢層の子供たちが参加できるような取り組みが必要です。

③ 多様な子供たちへの読書環境の整備

ア 「すべての人に読書の機会を」の理念のもと、上尾市図書館、駅前分館、大石分館に「上尾市図書館りんごの棚」を設置しました。また、アウトリーチサービス^{*14}として団体貸出「りんごのバスケット」⁷を実施しています。さらに、令和7（2025）年度から、障害を理解するための本のセット「りんごのかご」⁸を小学校に巡回貸出しています。これらの活用は十分とはいえないため、さらなる周知が必要となります。

イ 外国籍の子供に向けては、日本語を母語^{*15}としない子供のために、外国語資料や多言語電子絵本^{*16}、やさしい日本語の資料を収集し、誰もが気軽に利用できる環境づくりを進める必要があります。

⁷ 「りんごのバスケット」は、「上尾市図書館りんごの棚」の周知と理解を目的として、希望のあった小学校や障害者施設等に貸し出すアウトリーチサービス。絵本等読みやすい本30冊を1セットとする。令和5年度から開始。

⁸ 「りんごのかご」については、P14を参照。

第2章 基本方針

読み聞かせのまち あげお ～ 生涯を通じて本に親しむ礎を築きます ～

子供が本の楽しさを知る最初のきっかけは「読み聞かせ」です。子供は本を読んでもらうことが大好きです。まちのそこそこで保護者が、地域の大人が、年長の子供たちが「読み聞かせ」を行っている…。そんなまちを目指します。

1 推進体制の整備・充実

「読み聞かせのまち あげお」の実現に向け、支援センターがコーディネーターとなって、家庭や地域、学校、図書館の連携・協力を進め、子供の読書活動の推進体制を整備・充実していきます。

2 発達段階ごとの効果的な取組を推進

すべての子供が読書習慣を身に付けることができるよう、乳幼児期からの読書活動が重要であることを踏まえつつ、障害のある子供たちや日本語を母語としない子供たち等、多様な子供に対して効果的な取り組みを実施します。

3 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

上尾のすべての子供を本好きにするために、家庭・地域・学校が力をあわせて、子供の読書環境の整備・充実に努め、「読み聞かせのまち あげお」をつくります。

4 啓発と情報提供の充実

あらゆる年代の子供たちが生涯にわたり喜びをもって読書を続け、より読書に関する意識を深めていけるよう、本や読書活動に関する情報や図書館に関する情報を発信します。

また、子供たちだけでなく子供を取り巻く大人たちに、子供の読書活動の大切さを理解し、関心を高めてもらうよう情報提供をしていきます。

第2部 推進のための具体的な取組

第1章 推進体制の整備・充実

1 子どもの読書活動支援センターと図書館の役割

(1) 支援センター

① 家庭・地域・学校と図書館の連携のためのコーディネーター

支援センターは、「読み聞かせのまち あげお」の実現に向け、家庭・地域・学校と図書館の連携をスムーズに進め、子供の読書活動を推進するため、平成24年7月、図書館機能の一部として富士見小学校図書室内にオープンし、家庭・地域・学校と図書館の連携の橋渡しを行い、子供たちの図書館利用の向上のためのコーディネーターとして役割を担っています。

② 家庭への支援

～子供や子供を取り巻く大人たちに読書の楽しさの伝達～

- ア 子育て中の保護者向けの講座や、ブックスタート期の赤ちゃんから青少年までの子供に対する読書イベントを開催します。
- イ 児童・生徒や保護者などからの読書相談を行います。
- ウ 「おやこでえほんサロン」を開催し、保護者同士の交流を図たり、乳児が興味を持つ絵本の紹介、絵本選びに関する相談に応じます。絵本を囲んでの乳幼児と保護者と楽しいひと時を提供します。
- エ 子供を取り巻く周囲の大人に絵本の楽しさ、奥深さなどの魅力を知ってもらうための講座を開催します。

③ 地域への支援

～読み聞かせボランティア、家庭児童文庫や子供の読書活動推進団体への支援と連携～

- ア 読み聞かせボランティアの養成や資質向上のための講座を開催します。
- イ 読み聞かせボランティアへの本に関するアドバイスをを行います。
- ウ 家庭児童文庫や子供の読書活動推進団体への支援を行います。
- エ 読み聞かせボランティア相互の情報交換の場として「読み聞かせボランティア連絡会」を開催します。

④ 学校への支援

～学校や学校図書館の充実、朝読書や学校の授業で読み聞かせや本の紹介～

- ア 学校・保育所の要望に応じて、教科や特別活動などに関する本を配送・回収します。(団体貸出 ※表参照)
- イ 「あっぱい ぶっくるセット本」「学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセット」「特別支援学級用のセット・りんごのかご」事業の円滑な運営を行います。(巡回貸出 ※表参照)

ウ 司書教諭・学校図書館支援員研修会への講師の派遣や助言を行います。

エ 読み聞かせボランティア・学校応援団の研修会への講師の派遣や助言を行います。

⑤ 長期にわたる子供の読書活動や意識の変化の調査・考察

～「読書パスポート」に関するアンケートを継続的に行い、読書活動に関する傾向などの長期にわたる検証～

家庭・地域・学校と連携しながら子供たちに有効な読書推進施策を展開していくために、子供の読書の実態や、各種事業の効果を調査し、検証します。

特に、上尾市独自の「読書パスポート」事業が、小学生のみならず、青年期にわたる不読率の低減に効果を発揮しているのかどうかなどを検証し、上尾市の子供たちの読書活動に関する傾向を長期にわたって把握していくために、小・中・高校生に加え、「上尾市二十歳のつどい」の企画運営を行う代表者^{*17}にもアンケートを行い、その結果を公表します。

「団体貸出と学校・保育所巡回貸出」

団体貸出	団体貸出本 (小・中学校)	- 学校から依頼のあったテーマにあわせ、調べ学習などに役立つ資料を図書館で選書し、長期貸出 - 貸出方法：希望のあった学校へ、配送
	学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセット (小学校)	- 各学年の教科書の単元をキーワードに児童が読んで楽しく、興味関心を広げられる本のセット。8種類（30冊程度）×6セット - 学校においては、平行読書（教科と関連させて本や文章を読む）の一助とする。 - 貸出方法：学校をブロックごとに分け、ブロックごとに1種類（1校につき年間2種類）を配送。
保育所・学校巡回セット	えほんあっぴい ぶつくる セット本 (保育所用)	- 支援センターがお薦めする絵本のセット。 - 保育所を約2か月ごとに巡回する、とっておきの30冊。 - 子供も楽しめる図鑑や、保護者向けの絵本も入れてある。子育ての中に絵本の読み聞かせを取り入れてもらうことが目的
	あっぴい ぶつくる セット本 (小・中学校用)	- 子供が手に取りやすい本、図書館としてぜひ読んでほしい本、科学絵本など幅広いジャンルの本を組み合わせた読み物のセット。 - 小学校は低学年・中学年・高学年用それぞれ30冊の計90冊、中学校は「友情」「映画になった本」などテーマ別の30冊
	りんごのかご (小学校・特別支援学級用)	- 令和7年度から小学校特別支援学級の読書活動を支援するためのセット本 - LLブック^{*19}や絵本等読みやすい本、18冊を1セット - 誰もが読書を楽しめる環境を作ることが目的

（2）図書館

図書館は、子供の本のエキスパートとして、子供の本の選定、選書、収集、蔵書構成、除籍や絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング*18、ブックトーク、読書イベント、ブックリストの作成、レファレンスサービスなどの業務を行います。

2 子供の読書に関わる関係機関との連携

第1次計画期間において関係各課などの取組が示され、それぞれ成果も見られました。第2次計画・第3次計画では、進捗状況を確認し、各課との連携・協力関係を築き、取組のさらなる発展と課題の解決に努めました。

第4次計画では、「多様な子供たちの読書機会の確保」が重要な課題となります。多様な子供の読書活動を推進するためには、様々な機関や人々の連携・協力が不可欠です。保育所、認定こども園、公民館、児童館、特別支援学校、社会福祉協議会等が、それぞれ機関の特質を生かし、さらに連携・協力を進めていきます。

3 図書館・学校・学校図書館の連携

子供の読書活動の推進に関して特に中心的な位置付けとなるのが図書館・学校・学校図書館です。現在、学校図書館支援員研修に、支援センター職員が出席し連絡調整を行っていますが、市全体の推進の方向性を共有し、それぞれの役割に応じて効果的な読書推進を図っていくためには、司書教諭との連携の強化は不可欠です。司書教諭の実態を把握し、ニーズにあった研修会等を行うなどで交流を図ると同時に、学校での読書教育・図書館教育を充実させていくための方策や、あっぱい ぶっくるセット本・特別支援学級用セットりんごのかごの選書、学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセットの利用方法などについて協議していく必要があります。

また、毎年授業や学校行事などで必要とされる図書の確保や、季節的に需要が高まる資料の購入についても、図書館・学校・学校図書館の三者が調整を図り、連携を図ることで、需要に応えることができ、市全体の図書購入費を効果的に使うことに繋がると考えられます。

さらに、第4次計画で「デジタル環境に対応した読書環境の整備」が課題となる中、電子書籍が子供に与える影響や有効性、読書教育への配慮などについて図書館と学校で協議を行いながら、市としての今後の方針を決定していくことも重要です。

4 読み聞かせボランティア相互の情報交換

図書館では、読み聞かせボランティアグループによるおはなし会が盛んに行われています。また、児童館でもボランティアによる読み聞かせや紙芝居の上演が定期的に行われるなど、市民によるボランティアの活躍は読書活動推進に欠くことはできないものです。一方で学校での学校応援団やボランティアの朝の読み聞かせなどは、コロナ禍以降、減少傾向にあります。

支援センターでは、市内で活動するボランティアの養成やスキルアップのために講演会や講座を行っています。今後はよりきめ細かなボランティアの支援を行うため、「読み聞かせボラ

ンティア連絡会」で、ボランティア相互の情報の交換や共有をし、それぞれの活動の充実やスキルアップを図るとともに、ボランティアの様々な活動の場を模索していきます。

第2章 発達段階ごとの効果的な取組の推進

発達段階に応じた取組の推進

『小学生から高校生の読書に関する7年間の追跡調査データ⁹』によれば、「小学校入学前に読み聞かせを「週に4日以上」受けた子供は、「週1日未満」の子供と比べて、その後の読書時間も1.5～2倍長くなる傾向があり、また、早い段階で読書習慣を身に着けた子供は、その後も長い時間読書をする傾向がある。」とされています。

このことは、成長の過程で読書の時間が減らないためには、意欲や関心を高めるような働きかけが必要になることを意味します。子供時代に読書経験を深められるような工夫を行い、読書習慣を定着してゆく土壌づくりが肝心です。自ら進んで読書をするような子供を育てるには、乳幼児期からの発達段階に応じた読書機会を与えることが重要であり、提供される機会は子供の各年代の興味の持てる内容である必要があります。

(1) 発達段階に応じた特徴

読書経験に関する発達段階ごとの特徴としては、次に記すような傾向があるとされています。読書習慣を形成する上では、一人一人の状況や発達段階の特性に応じた対応が必要となることもあります。

① 乳幼児から幼稚園・保育所などに通うまでの時期

喃語（なんご）^{*20}を話すような乳児期は、大人から積極的に話しかけることが重要です。このことで、言葉が徐々にわかるようになります。また、絵本等を読むことで視覚と聴覚からお話、物語を伝えていきます。読書というよりも、本に親しむことを中心に取り組んでいく必要があります。言葉に関する感覚を豊かにしてゆく素地作りが求められます。図書館のおはなし会等を参考に、手遊びやわらべ歌を日々の育児に取り入れ、親子の触れ合いや感受性を育む環境づくりが大切です。この時期に読み聞かせを行うことは言葉を育むだけでなく、安定感や親密感を高めるという効果が期待できます。

② 小学生時期

低学年では、分かりやすい文章に触れることで、一人で読書しようとする意欲が芽生えます。語彙が増え、文字から情景を想像できるようになると、読書の楽しさを実感し、習慣の基礎が形成されます。音読や多様なジャンルの読書により技能を習得していく訓練期になります。

中学年では、考えを比較しながら読む創造的な力が育ち、読む速度も向上します。多様な本との出会いが感性を磨きますが、読了できない子もいるため支援が必要です。

高学年では語彙が飛躍的に増え、目的に応じた本を選ぶ力が育ちますが、読書への関心が薄れる場合もあるため、興味を引く機会の提供が重要です。小学生6年間で読書習慣が築けるかどうかは将来に大きく影響します。

⁹ 東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で実施している調査。同一の子ども（小学1年生から高校3年生まで）と保護者を対象として2015年に実施し、その後7年間継続して追跡調査したもの。

③ 中学生時期

中学生になると、作者や登場人物に共感したり、感動を覚えるような本に出会ったりすることで、読書への関心が広がっていきます。共感を求めて読書の幅を広げる傾向が見られるため、読書への意欲や興味を高めるような周囲の働きかけが重要になります。

④ 高校生時期

高校生になると、読書習慣を継続している生徒は多様なジャンルに触れ、より高度な内容の書籍も理解できるようになります。読書の質をさらに高めていくためには、物語や小説に限らず、知的好奇心に応じた幅広い分野への読書に取り組むことが求められます。

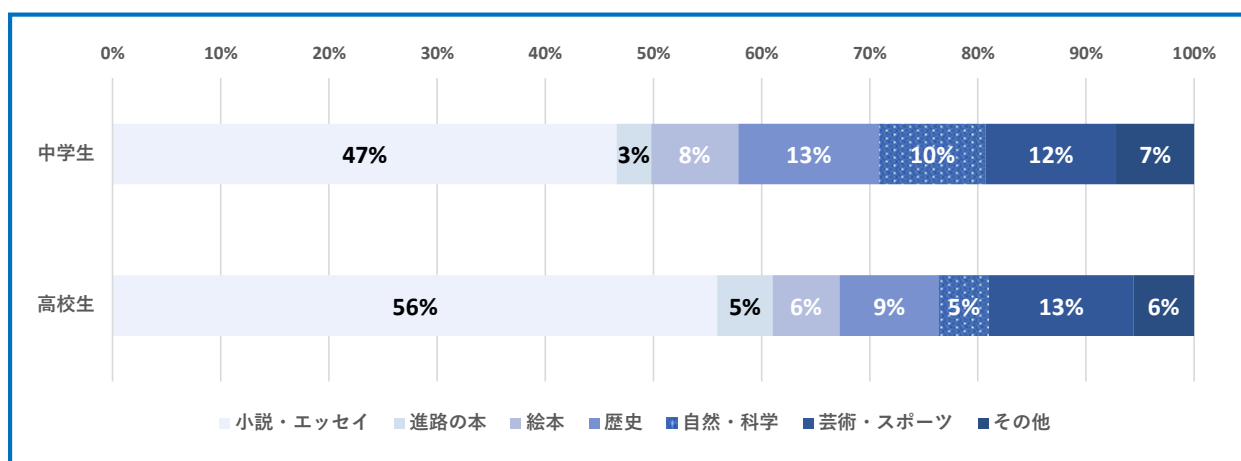


表 4 「本のジャンル」－ 読書についてのアンケートより－

（2）発達段階に応じた取組

子供が発達段階に応じて読書習慣を身に付けることを目的として、発達段階ごとの特徴に応じた取組を進めます。

特に、「読み聞かせのまち あげお」を具現化していくためには、乳幼児期からの読書習慣形成が有効手段と考えられることから、第3章に記す施策を有機的に結び付けて推進します。

第3章 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

1 図書館における取組

(1) 図書館の役割

図書館では、子供たちは自由に本を選び読書を楽しむと同時に、自ら必要な情報や本にたどりつく方法を学ぶことができます。また、保護者は子供に読ませたい本を選んだり、子供の読書などについて職員に相談したりすることができます。

子供の読書支援にかかる公共図書館の主な役割は、文部科学省『第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』等によれば、以下のようなものとされています。

- ① 乳幼児から青少年までの読書機会と環境整備
- ② 読書活動の推進プログラム
- ③ 家庭・地域・学校の連携
- ④ 多様な子供への対応
- ⑤ デジタル環境への対応
- ⑥ 子供の視点を尊重したサービス
- ⑦ 専門人材の育成と配置

図書館は、上記の役割を担うため、子供の本のエキスパートとして、子供の本の選定、選書、収集、蔵書構築や絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、読書イベント、ブックリストの作成・レファレンスサービスなどの業務を行います。また、子供が本を通して心豊かな成長ができるよう支援するとともに、電子書籍の活用を含めた読書環境の整備・充実を図ります。

(2) 資料等の充実

利用者の要望や児童向け書籍の出版状況を把握することに努め、利用者にとって魅力ある資料構成になるよう努めます。

基本図書^{*21}やおすすめの本は、多くの子供たちが借りられるように複本を揃え、計画的に買い替えを行うほか、子供が楽しみ・理解しやすい内容で、最新の情報をわかりやすく伝える図書を収集し、子供の調べ学習に役に立つ所蔵に努めます。また、読み物、調べ物、科学の本など、あらゆるジャンルの本をバランスよく収集し、図書館に来るすべての子供たちの知的好奇心を満たす資料構成を目指します。

さらに、近年では読書に障害を持つ子供たちに対して、マルチメディアデジター^{*22}や電子書籍といった電子資料の有効性が示されています。紙の本と電子書籍双方の利点および課題を踏まえ利用者のニーズや対象に応じた電子書籍等の提供について検討するとともに、デジタル

化における問題の未然防止のため、子供たちへのリテラシー教育^{*23}を進めていく必要があります。

（３）利用者に応じたサービス

① 乳児向けサービス

～ブックスタート事業、あかちゃんおはなし会～

乳幼児の早い時期から読書に親しむ環境づくりを行っています。受診率の高い4か月児健診時に、親子に読み聞かせをし、乳児に絵本を配布するブックスタート事業を推進します。

また、乳児を対象としたあかちゃんおはなし会などを開催し、乳児と保護者が本に触れ、手遊びやわらべ歌をまじえて乳児と遊びながら口承文芸を覚えてもらうなど、親子の触れ合いや感受性を育む環境づくりを行います。

② 幼児・小学生向けサービス

～「えほんのきろく」、「読書パスポート」の活用～

幼児、小学生向けに、おはなしボランティアや読み聞かせボランティアの協力のもと、「絵本」や「おはなし」と「子供」とを結びつけるよう、定期的におはなし会や「えほんのじかん」などを開催しています。より多くの子供が本との出会いができるよう「えほんのきろく」や「読書パスポート」の利用を促進し、読書習慣の形成を図ります。

小学校では、新1年生を対象におはなし会や、「読書パスポート」の配布事業の継続、さらにはブックトークを行うなど、図書館の利用促進を図ります。

③ 青少年向けサービス

～同世代のコミュニケーションを図る事業を実施～

上尾市図書館には、中学生・高校生対象の青少年（ＹＹ）コーナーを設置しており、令和5年度には、本館・大石分館に加え、開館時間が長く青少年が利用しやすい上尾駅前分館にも設置をしましたが、令和6年度図書館利用者アンケート¹⁰では、中高生向きのティーンズ図書コーナーの認知度が34%と低いため、利用促進に向けさらなる情報提供に努めるとともに、魅力ある資料構成に努めます。

青少年世代の図書館への来館促進としては、現在、夏休みの青少年レファレンスタ임や、図書館まつりでの上尾高校との連携による高校生のおはなし会などを行っています。より多くの青少年の来館につながるよう、「すきま時間」に気軽に来館し、参加できるワークショップや「今話題の本の読書会」など新たなイベントを企画します。同時に、関連する本の展示など本への親しみや今後の図書館の利用に効果がある施策を併せて検討します。

さらに、来館しなくても本や図書館を身近に感じられるように、ソーシャルメディアを活用した非来館型のイベントの企画を検討するほか、市内中学校や高校と連携し、学校図書館支援員や学校司書とも情報交換積極的に行うことで、青少年世代の読書率の向上を目指します。

¹⁰ 毎年度当初に実施している利用者モニタリング調査。令和6（2024）年度は、4月1日～4月30日まで実施し、回答数は574件。結果は上尾市図書館ウェブサイト上で公表している。なお、令和7（2025）年度は、5月1日～6月1日まで実施し、回答数は1,924件であった。

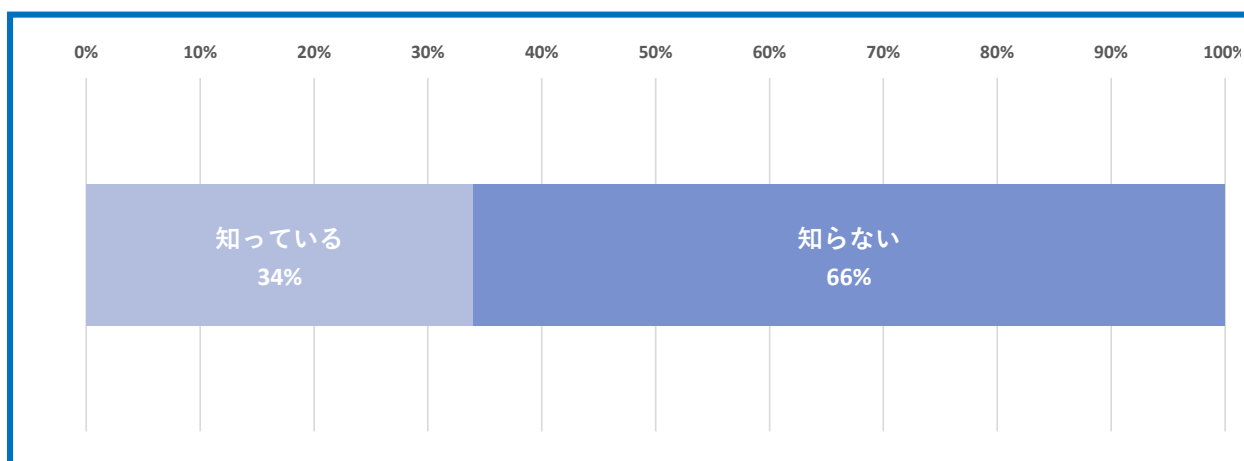


表 5 「中高校生向けのティーンズ図書コーナーについてご存じですか」

－ 令和 6 年度上尾市図書館利用者アンケートより －

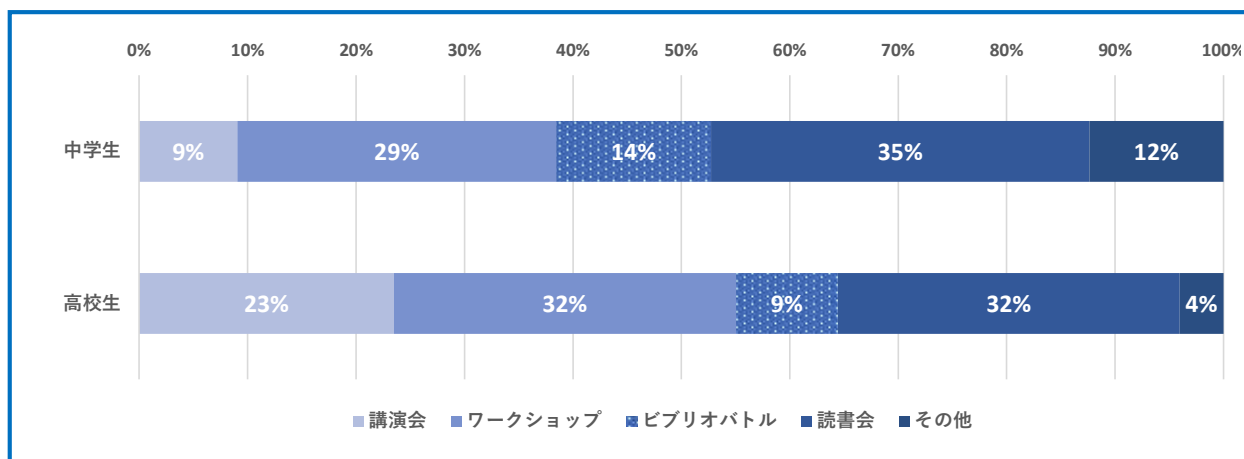


表 6 図書館で実施していたら参加したいイベント

－ 『令和 7 年度読書についてのアンケート』より －

(4) 読書活動に支援が必要な子供へのサービス

～多様なニーズに対応したサービス～

図書館では、すべての子供が本に親しめるよう、多様なニーズに応じた読書環境の整備を進め、読書バリアフリーに向けたサービスを展開しています。

読書に特別な配慮が必要な子供に向けては、本館・上尾駅前分館・大石分館に「上尾市図書館りんごの棚」を設置しました。今後は、さわる絵本や点字絵本、LL ブックなどのアクセシブルな本をさらに充実させていきます。また、図書館に来られない人たちへのアウトリーチサービスとして、団体貸出用の「りんごのバスケット」を展開しています。さらなる周知のため、特別支援学校等に出向いて、「りんごのバスケット」の本をつかった出張おはなし会を実施します。

外国籍や日本語を母語としない子供へのサポートとしては、現在、主要な言語の外国語の資

料を配架するにとどまっております。十分といえない現状です。多様化する外国籍の子供の母語に対応するため、無料で閲覧が可能な多言語電子絵本サイトなどを紹介し、周知に努めます。また、現在所蔵している外国語絵本については、言語別に配架するなど配架方法を工夫し、本をより探しやすいようにします。



本館りんごの棚コーナー



駅前分館りんごの棚コーナー



大石分館りんごの棚コーナー

2 家庭における取組

子供が生涯にわたる読書習慣を身につけるためには、乳幼児期から青年期に至るまで、保者の関わり方が大変重要です。図書館では、すべての子供が読書に親しむ機会を作り、絵本や本選びのお手伝いをしています。図書館や地域では、子供の年齢にあったおはなし会も開催されており、こうした機会を通じて子供と本を結びつけていきます。

家庭での読書習慣の重要性の理解促進

乳児期・・・声を通して初めて言葉に出会う時期です。保護者やまわりの大人たちが優しくたくさん語りかけ、一緒に絵本やわらべ歌を楽しみます。ブックスタート事業で配布されたブックリストや「えほんのきろく」などを参考に、家庭で読み聞かせを行うことを推進しています。子供が本と出会う機会を作ります。

幼児期・・・絵本やおはなしの楽しさに気づく時期です。保護者やまわりの大人が絵本を読んであげることで子供が絵本を読む楽しさを知る環境を作ります。図書館や地域の子供の年齢にあったおはなし会に参加します。

少年期・・・子供が本に関心を持ち、本を読む習慣をつける大切な時期です。「読書パスポート」を通して本について親子で話す時間を作ります。「読書パスポート」に読んだ本を記入し、達成感を感じることも大切です。

青年期・・・読書の量も質も共に高めていく時期です。中学生や高校生になると、人生の課題に向き合いながら深く考える力が育まれます。読書を通じて多様な視点や感情に触れることで、自ら考え行動する力が養われ、大人への一歩を踏み出すことができます。図書館の青少年コーナーやデジタル図書を活用し、幅広い本に出会える環境を整えることが大切です。また、保護者や周囲の大人が読書を楽しむ姿を見せることも、子どもの読書意欲を高める助けになります。

3 地域における取組と図書館との連携

子供たちが日々を過ごし、子供の読書と密接に関わる場として「地域」があります。児童館や公民館等が実施するさまざまな事業を活用して、まだ本に興味のない子供にも読書の楽しさを知るきっかけを提供します。

(1) 幼稚園・保育所

幼稚園や保育所は、施設内の蔵書冊数、内容の充実を図り、日々の保育の中に絵本の読み聞かせやおはなしの時間を作り、本に触れる機会を増やす環境作りを進めます。また、図書館の団体貸出や図書のリサイクルを利用して読書環境の充実を図ります。

図書館は、日頃、仕事などで来館できない保護者にも本に親しんでもらえるよう、子供向けの絵本や保護者向けの本なども取り混ぜた「えほんあっぴい ぶっくるセット本」の巡回配送を行っています。保育所ではこれらのセットを保育中の読み聞かせや、家庭への貸し出しに役立てています。

(2) 児童館

児童館は、青少年育成推進員や読み聞かせボランティア団体と協力し、読み聞かせやおはなし会などを実施します。また、おはなし会などに参加した子供には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押すなど、図書館と連携し、更に本などに親しむきっかけ作りに努めます。

(3) 放課後児童クラブ・放課後子ども教室^{*24}

放課後児童クラブや放課後子ども教室は、日々の生活や遊びの中に本を読む時間、読み聞かせの時間を設けます。また、図書館の団体貸出・図書リサイクルなどを活用して図書の充実に努めるとともに、「読書パスポート」の活用も推進します。

(4) 児童文庫・自治会

地域では、個人や自治会が自宅または地域の集会所を開放する形で児童文庫を運営し、子供たちに本の貸し出しやおはなし会を行っています。図書館の補助金（上尾市子どもの読書活動推進事業補助金^{*25}）や団体貸出、図書リサイクルなどの支援を活用しながら、さらなる図書活動の充実に努めます。

(5) 読み聞かせボランティア

読み聞かせボランティアは、子供が良い本に出会うための橋渡し役となっています。図書館と連携して定期的におはなし会を行い、「えほんのきろく」や「読書パスポート」を活用するなど子供が本に親しむきっかけづくりに努めます。また、図書館や支援センター主催の講座やボランティア連絡会に参加し、研さんを重ね、より魅力的な読み聞かせの技能向上に努めます。

4 学校における取組

幼稚園・保育所や学校では、児童生徒の発達段階に応じて、子供たちが読書の幅を広げ、生涯にわたる読書習慣を身に付けるため、さまざまな図書にふれる機会を確保するなど全ての子供たちが本に接する機会を持ち、読書活動機会を充実させることが求められています。

市内の小・中学校では、校長のリーダーシップの下、学校全体で組織的に読書活動を推進しています。司書教諭が中心となり、教員、図書館支援員、学校応援団・ボランティアなどが連携・協力してそれぞれの立場から、学校図書館の機能の充実を図るよう努めています。教職員は、学校図書館を活用して、学習の充実を図るとともに、計画的な読書活動の推進、学校や家庭における読書習慣の確立など、豊かな心を育む取組を実施しています。

市内の高校では、校長のリーダーシップの下、読書週間に生徒同士でのビブリオバトルやブックトークなどの機会を設けます。また、図書館と司書教諭・学校司書が連携し、生徒が読書への関心を高める取組を行います。

（１）学校の役割

高校においては、令和 4（2022）年度から段階的に実施され、小学校は令和 2（2020）年度、中学校は令和 3（2021）年度から新学習指導要領の全面実施が行われています。新学習指導要領に基づいて、『学校図書館教育全体計画』『学校図書館教育年間指導計画』の作成・内容の充実を図り、授業などで学校図書館の活用を位置づけ、児童生徒の発達段階に応じた読書指導を行うと共に自主的、自発的な読書活動を充実させることが求められています。

（２）学校図書館

学校図書館には、「読書センター」としての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援する「学習センター」・「情報センター」としての機能があります。学校図書館がこれらの機能を発揮するためには、授業で調べ学習を行うための十分な資料を揃えるなど、図書資料の整備を図ることが必要です。

平成 27（2015）年改正『学校図書館法』では、司書教諭のほかに学校図書館の運営の改善及び向上を図るため、学校図書館の職務に従事する職員「学校司書」の配置を努力義務として決めました。上尾市では、学校図書館支援員が「学校司書」に代わる位置付けで、学校図書館の運営に従事しています。

現在、学校図書館支援員は各小・中学校に一人配置されており、小学校では専任の支援員が常駐しています。今後は、中学校にも常駐の支援員を配置することが望まれます。

学校図書館支援員の資質向上のため、教育委員会と支援センターが協力して「学校図書館支援員研修会」を定期的に開催していきます。今後も、学校図書館の円滑な運営を進めるため、司書教諭・学校図書館支援員との合同研修会を実施し、学校と図書館との連携強化を図ります。

（３）図書資料の充実

小・中学校においては、司書教諭、学校図書館支援員が中心となり『学校図書館図書標準*²⁶』に基づき、計画的に図書資料の整備、充実を進めます。また、団体貸出本や学校巡回セッ

トと、図書館のリサイクル本を学校にある本とは別に読書活動に組み入れていきます。

ただ、図書館からの長期貸出本の管理が難しく「貸し出しをしていない」学校が多くあります。学校図書館システムと図書館システムを統一することにより、より効果的な読書支援が図れます。今後図書館が行う学校支援から、相互の連携を進め読書推進につなげていけるよう、「システムの統一」を検討してまいります。

（４）読書活動

学習指導要領では、小・中・高など学校の各学校段階において、子供が生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により様々な図書に触れる機会を確保することが重要とされています。子供が読書活動の意欲を高めるための授業を実施していき、「読み聞かせのまち あげお」をつくる一助を担います。

子供たちの学校での読書活動も「朝の読書」の時間が確保できなくなる等、少なからず変化が生じています。引き続き、子供たちが本との出会いを創出していくことができるよう、学校図書館において、季節に合わせたイベント等を開催したり、多様なジャンルの本を置いたり、魅力的な学習環境づくりを進め、児童生徒が本に接する機会を増やしていけるよう支援していきます。また、学校では図書館の読書イベントの情報提供などに取り組んでいます。今後は更に連携を充実させていきます。

そのほか、「子ども読書の日」の周知のため図書館や支援センターと協力し、広く子供の読書活動についての関心と理解を深めていきます。

5 家庭・地域・学校をつなぐ取組

（１）読書パスポート

図書館では、家庭・地域・学校をつなぐ取り組みとして、平成 26（2014）年度からセカンドブック事業を展開し、文字が読めるようになり、知る喜びにあふれる市内の全小中学校の入学児を対象に、おはなし会の実施と「読書パスポート」の配布、図書館利用カード（子供専用）の発行¹¹を行っています。

「読書パスポート」は、図書館の利用案内や調べ学習の方法、年齢に応じたおすすめの本の紹介¹²などが掲載され、読書記録やおはなし会などイベントの参加記録を記入できるほか、図書館の利用カードを収納できるようになっています。



¹¹ 利用カードの発行は、事前に保護者から図書館利用カードの作成希望があった児童に限る。

¹² おすすめの本の紹介については、出版状況や時代に合わせて適宜変更している。

（２） えほんのきろく

図書館では、平成 27（2015）年度から未就学児を対象に「えほんのきろく」を配布しています。これは、子供が生まれてから小学校で「読書パスポート」を受け取るまでの期間、子供と保護者の読書活動を支援するためのものです。

「えほんのきろく」には、市内の図書館や児童館、家庭児童文庫などで開催されるおはなし会の案内のほか、ジャンル別のおすすめ絵本リストなどが掲載されています。また、読書記録やおはなし会への参加記録なども記入できるようになっています。

（３） 読書習慣形成への影響¹³

「読書パスポート」の活用は、小学生の間では定着しており、読書習慣の形成に繋がっていると考えられます。また、中学生以降においても、「読書パスポート」を利用していた場合は、比較的「本好き」の傾向が見られます。将来にわたる読書習慣の形成への影響は、今後も継続的に追跡調査を実施し、分析していくことが必要です。その上で、事業の効果をより精緻に見極めていくことが重要になります。

¹³ 表 7「読書パスポートの使用及び本は好きか」 ― 読書についてのアンケートより ―（P27）参照。

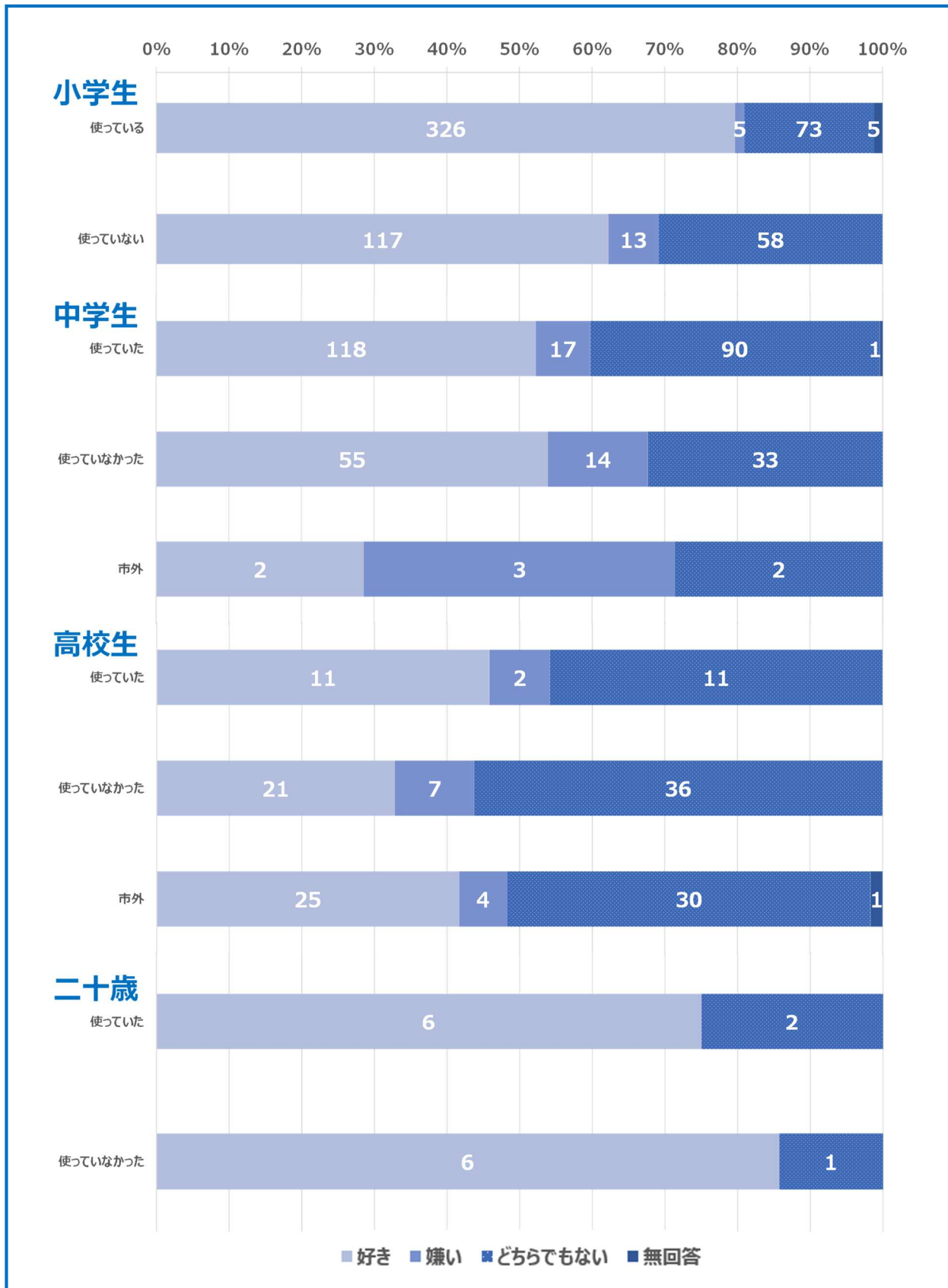


表 7 「読書パスポートの使用及び本は好きか」－ 読書についてのアンケートより－

第4章 子供の読書活動に関する啓発と情報提供の充実

1 啓発活動の充実

(1)「子ども読書の日」の取組

「子ども読書の日」(4月23日)は、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため¹⁴⁾」に設けられたものです。

この日には、図書館と支援センターが連携して、「図書館長のおはなし会」「図書館クイズ」など、子供たちの読書のきっかけや読書活動の推進のための特別イベントを行います。

(2) 読みたい本を見つける機会を増やす取組

図書館の棚に並ぶ多くの本の中から、読みたい本を選ぶのは難しいものです。そこで図書館では、長年読み継がれてきた子供に読んでほしい本のリストを作成しています。さらに、毎年購入した本の中から特におすすめの本を紹介するブックリストや、青少年向けの図書情報紙も発行しています。また、おはなし会や「えほんのじかん」のチラシも用意し、本選びをサポートしています。これらのリストは時代に合わせて見直し、利用者のニーズに応じた新たなリスト作成も検討し、良書との出会いを支えています。

赤ちゃんといっしょに 絵本をたのしもう -ブックスタートあげお-		＜対象＞4 か月児健診を受診している保護者 ・ ブックスタート事業で絵本と一緒に配布 ・ 赤ちゃんにおすすめの絵本 ・ 赤ちゃん向けのおはなし会や事業などのお知らせ
よんでごらん		＜対象＞小学生以下 ・ 毎年4月に発行 ・ 前年度購入の児童書から図書館がおすすめの本を、分野別に紹介 ・ 図書館本館、分館、公民館図書室で配布
こどもしつだより		＜対象＞小学生以下 ・ 本館児童室の展示本からおすすめの本を紹介 ・ 図書館本館、分館、公民館図書室で配布

¹⁴⁾ 推進法第10条第1項。

おやこでえほんサロン 「どのえほんがすき？」 紹介本リスト		＜対象＞ 乳幼児とその保護者 - 第2木曜日の「おやこでえほんサロン」のミニおはなし会で読んだ絵本 - 季節、テーマごとの絵本の紹介
Next Generation (ネクスト・ジェネレーション)		＜対象＞ 中学生、高校生 - 本館青少年(YY)コーナーの展示本からおすすめの本を紹介 - 年3回発行 - 図書館本館、分館、公民館図書室で配布 - 市内の中学校11校、高等学校5校に送付

2 情報提供の充実

「広報あげお」の「図書館へようこそ」のページに図書館全体のお知らせを掲載するとともに、図書館ホームページには、各階層別のきめ細かな情報を発信します。

また、SNS には図書館の事業に限らず、市民やボランティアの読書活動の様子や、図書館員が選んだ新しい本の話題を提供するなど、より身近でタイムリーな話題を提供します。

(1) 市広報誌（<https://www.city.ageo.lg.jp/page/13-koho-ageo-pdf.html>）

広報あげお		- 毎月1日発行 - 図書館特集ページ「図書館へようこそ」を開設 - 予約ランキング本を掲載 - 図書館と支援センターの読書イベントやおはなし会の情報を掲載
--------------	---	---

(2) 図書館ホームページ（<https://ageo-lib.jp/>）

こどものページ		- 幼児・児童向け専用ページ - 絵本や本の検索機能 - おすすめ本の紹介 - 読書イベントなどの情報の掲載
YY ページ		- 青少年向け専用ページ - 青少年(YY)コーナーの紹介 「Next Generation」のweb版の掲載 - おすすめ本の紹介 - 電子図書館のティーンズコレクションを案内

子どもの読書活動支援センター		• 子供の読書活動支援や連携に関する専用ページ • 「読書パスポート」や「えほんのきろく」の使い方などの紹介 • 「おやこでえほんサロン」や支援センター読書イベントの情報を掲載 • 学校関係や保護者向けの啓発記事を掲載
------------------------------	---	--

(3) SNS (<http://www.facebook.com/ageokodomodokusho>、https://x.com/Ageo_kodomodoku)

フェイスブック		• 図書館・地域・学校の読書活動に関する情報 • 読書イベントなどの開催の様子 • 読み聞かせボランティアなどの紹介
X (旧:ツイッター)		• 読書に関する出来事や講座、イベントをタイムリーに紹介 • 季節のおすすめ本、各年代向けのおすすめ本などの紹介

資 料 編

1 子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体 文部科学大臣表彰

文部科学省では子供の読書活動の推進のために、特に優秀な実践を行っている学校、図書館、団体（個人）を対象に、毎年文部科学大臣表彰を行っています。市内における被表彰校・団体は下記の通りです。

学校

年度	学校	内容
平成 15 年度	上尾市立上尾小学校	地域の本好きのボランティアを中心に「読み聞かせボランティア」を結成し、1～3 学年に毎週1回放課後に読み聞かせを行った。また低学年と高学年の「ペア読書」などの特色ある取組を行った。
平成 18 年度	上尾市立瓦葺中学校	毎日の朝読書・全教師による読み聞かせなど生徒の生活に本を位置づけ読書活動の推進に取り組んだ。また、図書室に畳スペースの設置・図書委員や教師のお薦めリストの作成・リーディングフェスタの実施など学校図書館の利用促進に努めた。
平成 23 年度	上尾市立富士見小学校	読書タイムを設定し、教員、ボランティア等による読み聞かせや給食の時間の放送による読み聞かせを継続して行った。ボランティアによる朗読劇や読書月間に学年の発達段階に応じたりリスト「富士見っ子お薦めの本」を配布するなどして子供の意欲を高めている。
平成 26 年度	上尾市立鴨川小学校	「読み聞かせ」や「ペア読書」等、読書タイムの取組を工夫するとともに、メダルの配布や読書貯金により、日頃から読書活動の推進に取り組んだ。 1カ月間の「鴨川小読書月間」や「読書かるた」「読書標語」など特色ある取組を行った。また、上尾市図書館や支援センターとの連携を積極的に行った。
平成 27 年度	上尾市立大石南中学校	毎日の図書館開館や全校一斉読書等の取組により、日頃から読書活動の推進を図った。また、図書委員によるリーディングフェスタや貸出数の集計・紹介・表彰、フリーライブラリーの設置などにより、意欲の向上を図った。
令和 2 年度	上尾市立上平小学校	児童図書委員が 10 冊程度選書して各クラスに 1 か月単位で貸し出す「各クラスミニ貸出」や「年間 40 冊読もう」というスローガンを掲示し読書意欲を高める取組などを行っている。 また、ボランティアによる読み聞かせやイベントなどを行い、地域の力、教職員のサポートにより良い本との出会いの場づくりを行っている。
令和 4 年度	上尾市立太平中学校	学校内の取組…各クラスの利用率を競ったり、学級委員が図書を借りることができるか挑戦したりする「読書祭」や、各学級へ学校図書館の本 10 冊を学級文庫として貸し出し、学級での読書活動に役立てる取組を行っている。 学校外の取組…上尾市図書館主催の本を紹介する企画に応募するなどの連携や、図書新聞の掲示や学校だよりに読み聞かせなどの様子を掲載し、保護者へ啓発を行っている。

令和 7 年度	上尾市立西中学校	・司書教諭と学校図書館支援員が連携し、新刊図書を中心に子供たちが興味をもったり読みたくなったりするようなポップの掲示や、本や読書に関連する新聞記事等を紹介している。 ・図書委員会の活動で、学期毎に、全校で貸出冊数の多かった生徒 10 人を『読書人』として表彰する取組や放送委員会と連携して、給食時におすすめ本を紹介するなどしている。
---------	----------	---

図書館

年度	図書館	内容
平成 28 年度	上尾市図書館	・小学校入学児を対象に、図書館・学校・読み聞かせボランティアが協力して市内全小学校各クラスでおはなし会を行い、読書手帳である「読書パスポート」を配布する。 ・小・中学校、市立幼稚園・保育所に長期間一括貸出をする「あっぱい ぶっくるセット本」を行っている。

団体

年度	団体	内容
平成 23 年度	上尾おはなしの会	昭和 56 年の結成以来、長年にわたり、市内の図書館、学校等で質の高いストーリーテリングや読み聞かせを行うことで、子供たちにお話の楽しさを伝えるとともに、子供の読書推進に大きく貢献している。
平成 29 年度	絵本と手あそびの会 ぽけっと	平成 12 年に結成、手あそび人形を手作りし、わらべうたと手あそびを取り入れた親子で楽しめる絵本の読み聞かせを行っている。図書館、学校、児童館、小児医療センターなどで活動している。

2 埼玉・教育ふれあい賞

埼玉県では、「彩の国教育の日」（11 月 1 日）を中心に、県や市町村、学校、教育に関係する取組が実施されています。県では、「彩の国教育の日」の一環として、日々の教育活動に積極的に取り組み、著しい成果を上げている学校・団体を「埼玉・教育ふれあい賞」として表彰します。

図書館

年度	図書館	内容
令和 2 年度	上尾市図書館	図書館・支援センターでは、家庭・地域・学校と連携し子供の読書意欲を高める活動をしている。 家庭に向けては児童・保護者からの読書記録やイベントの開催、地域に向けては読み聞かせボランティアの育成や資質向上のために講習会の開催、学校に向けては小学生に対して読書手帳「読書パスポート」配布、「あっぱい ぶっくるセット本」の市内巡回をさせ、図書の充実を図っている。
令和 3 年度	上尾市青少年育成推進員協議会	優良な図書や映画の普及啓発（児童館などのおはなし会）などの活動を行っている。特徴的な活動として、平成 19 年度から大型紙芝居の制作を行い（60 作品完成している）、市内の児童館や学校などのおはなし会で披露している。

3 参考資料

1. 『第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について』（文部科学省）
URL: https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html
2. 『埼玉県子供読書活動推進計画（第五次）』（埼玉県）
URL: <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2215/kodomodokusho/kplan.html>
3. 『図書館界 第76巻 第2号 2024年7月1日発行』（2024年 日本図書館研究会）
4. 『学校図書館 2024年7月号』（2024年 全国学校図書館協議会）
『子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究報告書〈令和3年3月発行〉』（2021年 国立青少年教育振興機構）
5. URL: https://www.niye.go.jp/pdf/210811_02.pdf
6. 『令和5年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』（2024年 文化庁）
URL: https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/94111701_02.pdf
7. 『子どもの読書行動の実態－調査結果からわかること－』（2023年 ベネッセ教育総合研究所）
URL: https://benesse.jp/berd/up_images/textarea/datachild/datashu04/datashu04_pdf.pdf
8. 『小学生から高校生の読書に関する7年間の追跡調査データ』（2023年 ベネッセ教育総合研究所）
URL: https://benesse.jp/berd/up_images/textarea/datachild/datashu04/datashu04_pdf_2.pdf
9. 『「子ども・若者の本離れ」は本当か…今年発表された「子どもの読書調査」からわかる「意外な実態」』（2023年 ライター 飯田一史）
URL: <https://gendai.media/articles/-/121442>
10. 『本好き高校生が勧める「読む時間の確保と書籍の選び方」のコツ』（2024年 株式会社スクールパートナーズ）
URL: <https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/11857>
11. 『保護者と会話する小中高生が10年で増加！信頼関係を築く会話の5つのポイント』（2025年 ベネッセ教育総合研究所）
URL: <https://benesse.jp/kosodate/202507/20250702-1.html>
12. 『「子どもの生活と学びに関する親子調査 2024」結果「進路を深く考える経験」は学習意欲を高め、学習行動を促進』（2025年 株式会社ベネッセコーポレーション）
URL: https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/education/2025/05/29_6151.html
13. 『子どもの読書に関する7年間の追跡調査』（2023年 国立国会図書館国際子ども図書館）
URL: <https://www.kodomo.go.jp/info/child/2023/2023-093.html>
14. 『令和6年度図書館利用者アンケート集計結果』（2024年 上尾市教育総務部図書館）
URL: <https://ageo-lib.jp/lib/files/103003.pdf>
15. 『上尾市図書館に関するアンケート調査結果報告書』（2025年 上尾市教育委員会）
URL:

16. 『放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）』（こども家庭庁）
URL: <https://www.cfa.go.jp/policies/kosodateshien/houkago-jidou/>
17. 『放課後子供教室の概要』（文部科学省）
URL: https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/houkago_kodomo.pdf
18. 『第 69 回学校読書調査（2024 年）』（公益社団法人 全国学校図書館協議会）
URL: <https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>
19. 『IFLA 児童図書館サービスのためのガイドライン—0 歳から 18 歳 改訂版』（2020 年 国際子ども図書館）
URL: https://www.ifla.org/wp-content/uploads/2019/05/assets/libraries-for-children-and-ya/publications/ifla-guidelines-for-library-services-to-children_aged-0-18-ja.pdf

4 用語解説

(注釈番号順)

No.	頁	用語	意味
1.	2	不読率	1 か月に本を1冊も読まない人の割合（本計画では、児童・生徒の割合）。
2.	3	学校応援団	学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織。
3.	4	学校図書館支援員	令和2年度よりアピスマイル学校図書館支援員から学校図書館支援員に名称変更。学校図書館法に掲げられた学校図書館の運営に関する事項に従事することにより、司書教諭または学校図書館業務を担当する教員の職務を補佐する職員。学習に関係する資料の準備や読み聞かせ、台帳の管理、図書の整理や選書、環境整備や広報活動などを行う。
4.	4	子ども読書の日	『子どもの読書活動推進に関する法律（平成13年12月12日）』の中で毎年4月23日と規定される。子供たちがいろいろな本と出会うきっかけを演出するために、この日の前後には、図書館や公民館、学校などでさまざまな催しを行っている。
5.	5	青少年サービス	中高校生など、児童と成人の中間に位置する年齢層への図書館サービスのこと。上尾市においては、青少年サービスの対象年齢を13～18歳としている。上尾市では、平成6年にサービスを充実させるために、一般書、児童書から独立したコーナー『YY（ワイワイ）コーナー』を設置し、青少年向けの蔵書の収集、提供を実施している。 名前の由来は、ヤングのYを繋げてYY（わいわい）とし、「みんなでワイワイ楽しく来て本を借りてね」という願いを込めて名づけている。
6.	5	上尾市図書館りんごの棚	りんごの棚は、「さわる絵本」「布の絵本」「点字絵本」「LLブック」など文字や絵が見にくい、文を読むのが苦手、読みにくいなど、活字による読書に支障がある人のための資料を収集。スウェーデンの図書館で、子供は皆、本を必要としており、読書の喜びを体験する権利があるという考えのもとで始まった。 上尾市図書館りんごの棚は、子供から大人までを対象としているのが特徴。「本を読みたい」を応援するため、子供向けの本に加え、障害のある方も読みやすいバリアフリー図書を集めている。
7.	5	ブックスタート事業	4 か月児健診の際に、赤ちゃんと保護者に絵本を手渡す事業。絵本を通して、赤ちゃんと保護者がゆつくりと向き合い、心ふれあう時間を作ることを目的としている。
8.	5	放課後児童クラブ	児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童が、授業の終了後等に過ごす遊び及び生活の場。
9.	5	団体貸出	学校、保育所、幼稚園や福祉施設や市内に住所を有する読み聞かせ団体、児童文庫を対象に、長期間（1ヵ月間）貸し出しをする。貸出冊数は開架の資料は50冊まで、閉架書庫の資料は300冊まで、合計300冊以内としている。
10.	5	図書リサイクル	除籍資料のうち再利用可能なものを希望者に提供すること。
11.	6	ブックトーク	一般には、狭い意味で図書館や学校で司書らが行うブックトークをさす。これはある一つのテーマに沿って、数冊の本を上手に順序よく紹介することをいう。広い意味では、文字通り本について話をするをさす。自分の読んだ本を友人に薦めたり、図書館で司書が子供におもしろい本を薦めたりすることもブックトークといえる。

No.	頁	用語	意味
12.	6	ビブリオバトル	参加者同士で自分の気に入った本を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う書評ゲーム。発表参加者が一人 5 分間で 1 冊の本を紹介し、それを聞いた参加者(聴衆)と討論を行う。全ての発表が終わった後、どの本が読みたくなったかを基準に、参加者全員で投票を行って勝者を決める。
13.	8	平均読書冊数	特定の期間内（全国学校図書館協議会の調査では 5 月の 1 か月間）に読書した本の数の平均値のこと。
14.	9	アウトリーチサービス	図書館としてのアウトリーチサービスとは、図書館を利用したことがない人々や、利用が困難な人々（高齢者、障害者、入院患者など）に対して、図書館が能動的に働きかける活動のこと。
15.	9	母語	生後数年間のうちに、話者が生活環境のなかで自然に身につけた第一言語を言う。赤ん坊の身边でいちばん、関わり合いが多かった人びとから受け継いだ言語。他方、「母国語」とは、話者が国籍を持つ国で、「公用語」または「国語」とされている言語である。
16.	9	多言語電子絵本	複数の言語で読める・聞けるデジタル絵本のこと。音声と文字、画像が組み合わさった形式で、子供たちが視覚と聴覚を使って物語を楽しめるようになっている。
17.	14	「上尾市二十歳のつどい」の企画運営を行う代表者	上尾市「二十歳のつどい」の式典の企画や当日の進行（司会など）に協力するスタッフ（式典代表者）。
18.	14	ストーリーテリング	語り手がお話を覚え、自分の中で絵を描いてイメージし、聞いている人にそのストーリーと絵を伝えるよう、本は見ずに、お話を語ること。
19.	14	LLブック	やさしくて分かりやすく書かれている本。知的障害や発達障害のある人にも分かりやすく、ふりがなや絵文字、大きな絵や写真など工夫された本。
20.	17	喃語（なんご）	乳児が発する意味のない声。赤ちゃん言葉とも言う。声帯の使い方や発声される音の学習で、言語を獲得する前段階とされる。最初に「あっあ」「あー」などクレーニングが始まり、その後「ばばば」「だだだ」など多音節からなる音を発声する喃語になる。
21.	19	基本図書	基本図書とは、特定の分野を学ぶ際に基礎的な知識や考え方を身につけるために必要とされる重要な書籍で、入門書や標準的な教科書などが該当し、学習の土台となる役割を果たす。学校図書館や公共図書館においては、特に児童や青少年向けのサービスを提供するために重要とされている。
22.	19	マルチメディアデジー	発達障害や視覚障害等の様々な人が利用できる、文章を音声で聞きながら（読み上げているフレーズの色が変わるため、どこを読んでいるのか一目でわかる）、画面上で絵や写真を見ることができるデジタル図書。
23.	19	リテラシー教育	情報やメディアを使いこなす能力を育成する教育。

No.	頁	用語	意味
24.	23	放課後子ども教室	子供たちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、地域住民等の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として、学習や体験・交流活動などを行う事業。
25.	23	上尾市子どもの読書活動推進事業補助金	「児童文庫」や、地域で子供の読書活動を行っている団体の事業に交付する市補助金。
26.	24	学校図書館図書標準	公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が平成 5 年 3 月に定めたもの。

5 上尾市「読書についてのアンケート」の調査結果

「第4次上尾市子どもの読書活動推進計画」を策定するための基礎資料とするため、読書離れが懸念されている小学校高学年、中学生、高校生、二十歳のつどい代表者を対象に、「読書アンケート」を行いました。調査の概要、質問および回答内容は以下の通りです。

- 調査時期 令和7年6月から7月
- 調査対象 以下の通り

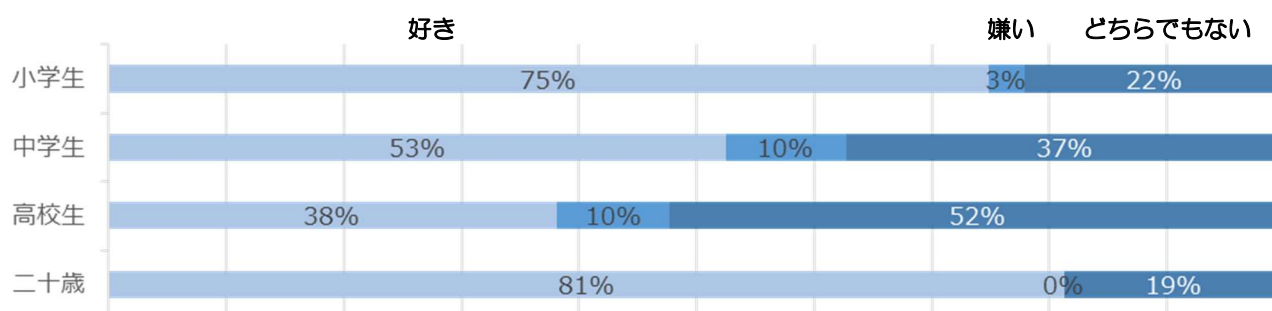
調査対象	対象学年	回答総数
小学校（22校）	3年生 各1クラス	605
中学校（11校）	2年生 各1クラス	336
高等学校（5校）	2年生 各1クラス	156
二十歳のつどい		16
合計		1113

※未回答や複数回答があるため必ずしも回答総数と一致しない場合がございます。

※7、8、10～13について、対象により回答設定が無い場合は、表に斜線が引いています。

1.本は好きですか？

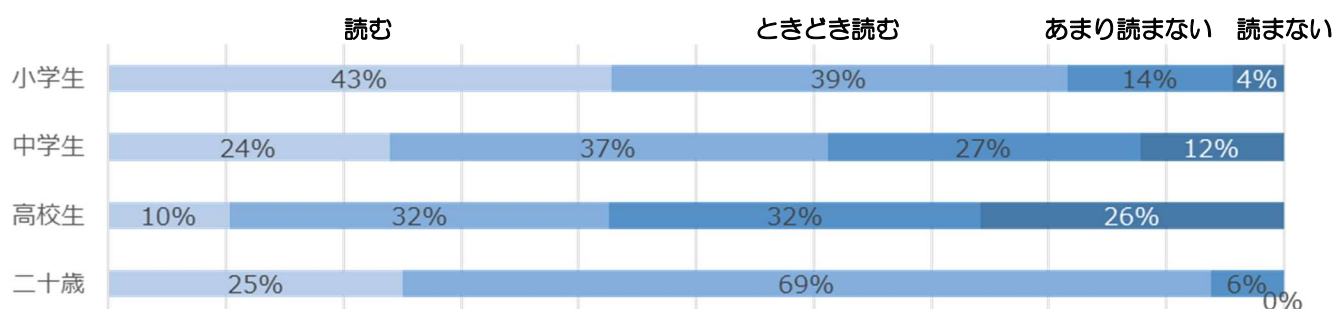
	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
好き	446	75%	176	53%	59	38%	13	81%
きらい	18	3%	34	10%	15	10%	0	0%
どちらでもない	132	22%	125	37%	81	52%	3	19%



「本が好き」と答えた割合については、中学生・高校生ともに令和2年11月の調査よりも増えている（令和2年11月調査：中学生 42%、高校生 38%）。また、二十歳のつどい代表者については、8割が「本が好き」と答えている。

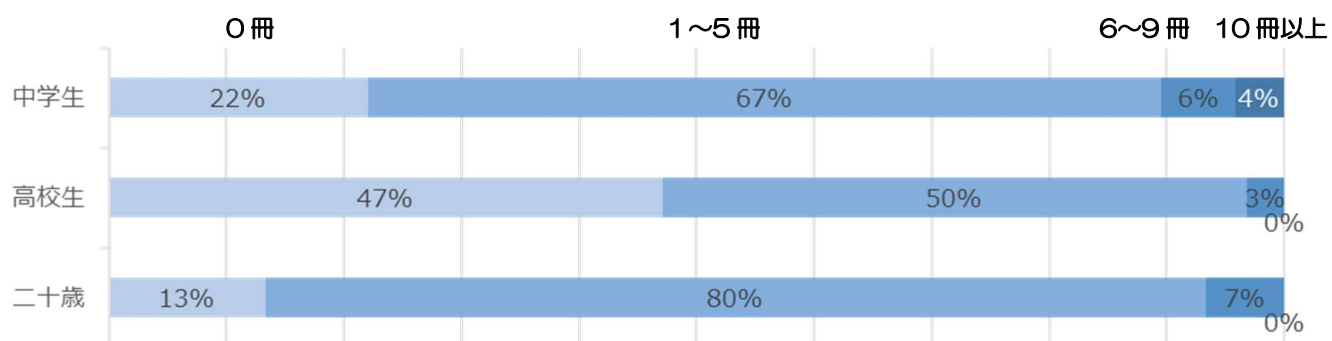
2. 本を読みますか？（マンガはのぞく）

	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
読む	256	43%	80	24%	16	10%	4	25%
ときどき読む	233	39%	125	37%	50	32%	11	69%
あまり読まない	84	14%	89	27%	49	32%	1	6%
読まない	26	4%	41	12%	40	26%	0	0%



3. ここ1か月で本を何冊読みましたか？（電子書籍を含む、マンガは除く）

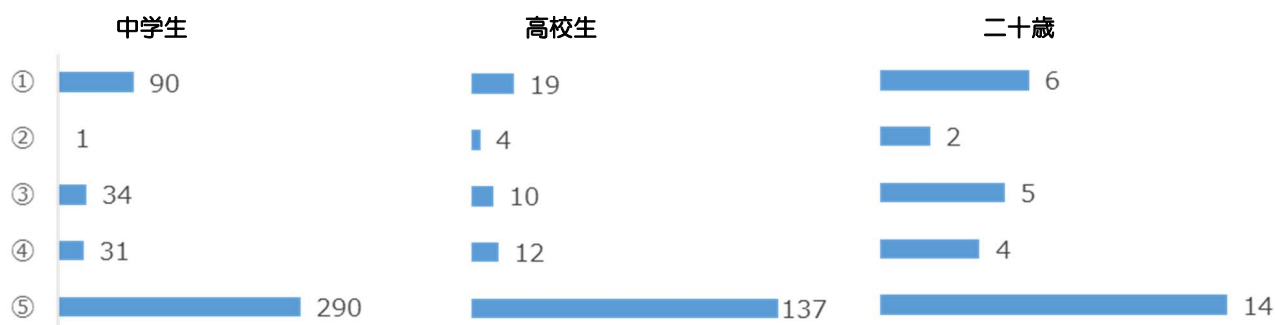
	中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合
0冊	74	22%	73	47%	2	13%
1～5冊	226	67%	77	50%	12	80%
6～9冊	21	6%	5	3%	1	7%
10冊以上	14	4%	0	0%	0	0%



令和2年11月の調査では、高校生がひと月で読んだ本の冊数については（0冊：29%、1～5冊：64%、6～9冊：3%、10冊以上：4%）であり、本を読まなくなった高校生が増えたことが伺える。

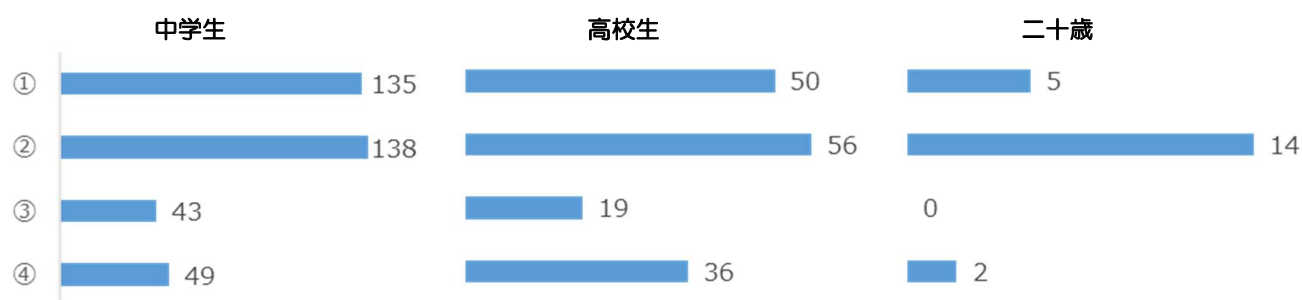
4. 普段どんなメディア等を楽しむことが多いですか？（複数回答あり）

	中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合
①テレビ	90	20%	19	10%	6	19%
②ラジオ	1	0%	4	2%	2	6%
③本	34	8%	10	5%	5	16%
④パソコン	31	7%	12	7%	4	13%
⑤スマートフォン	290	65%	137	75%	14	45%



5. 普段どんなタイプの本を読むことが多いですか？（複数回答あり）

	中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合
①単行本（ハードカバー）	135	37%	50	31%	5	24%
②文庫本	138	38%	56	35%	14	67%
③雑誌	43	12%	19	12%	0	0%
④電子書籍	49	13%	36	22%	2	10%



普段楽しんでいるメディアについては、中学生・高校生・二十歳のつどい代表者ともに「⑤スマートフォン」が最も多く、スマートフォンが身近なメディアであることが伺えるが、5. 普段読む本のタイプでは、④電子書籍が③雑誌の次に低く、読書は「紙の本」で行っていることが伺える。

6. 普段どんなジャンルを読みますか？（マンガ・雑誌は除く）（複数回答あり）

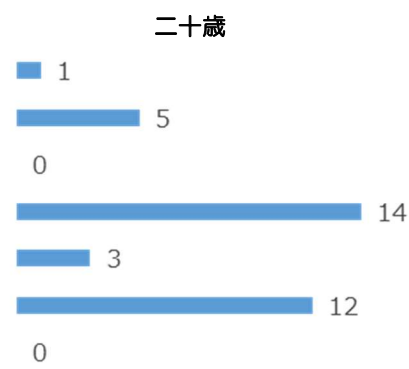
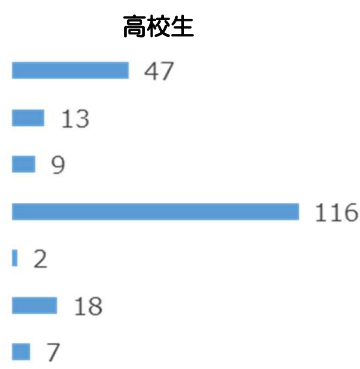
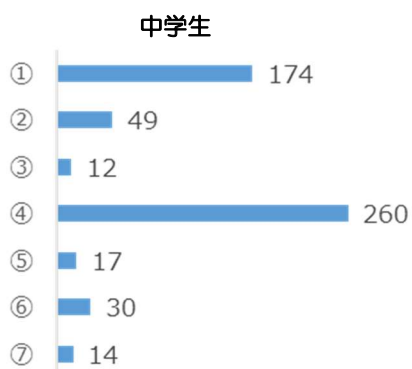
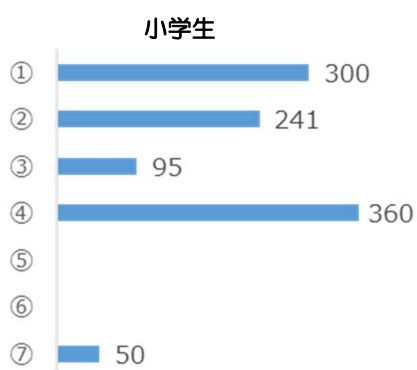
	中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合
小説・エッセイ	232	47%	109	56%	13	46%
進路の本	16	3%	10	5%	5	18%
絵本	40	8%	12	6%	0	0%
歴史	65	13%	18	9%	3	11%
自然・科学	49	10%	9	5%	2	7%
芸術・スポーツ	60	12%	26	13%	4	14%
その他	36	7%	11	6%	1	4%

7. 読む本はどのように選んでいますか？（複数回答あり）

	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
おはなし会	41	7%						
体験図書館員	96	15%						
図書館探検	71	11%						
工作	179	29%						
かがく遊び	127	20%						
映画会	87	14%						
講演会			33	9%	35	23%	5	28%
ワークショップ			107	29%	47	32%	7	39%
ビブリオバトル			52	14%	14	9%	3	17%
読書会			127	35%	47	32%	3	17%
その他	22	4%	45	12%	6	4%	0	0%

8. 本をどこでいちばん読みますか？（複数回答あり）

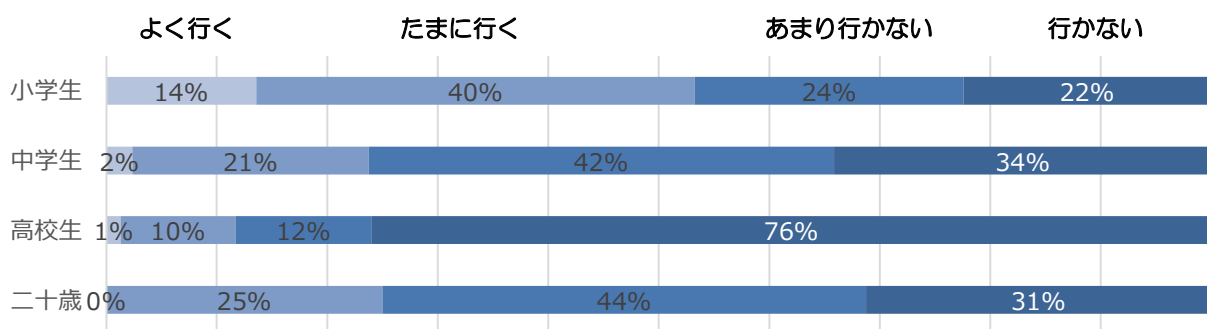
	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
①教室	300	29%	174	31%	47	22%	1	3%
②学校の図書館（図書室）	241	23%	49	9%	13	6%	5	14%
③上尾市の図書館	95	9%	12	2%	9	4%	0	0%
④自分の家	360	34%	260	47%	116	55%	14	40%
⑤レストランやカフェなど			17	3%	2	1%	3	9%
⑥電車やバス			30	5%	18	8%	12	34%
⑦その他	50	5%	14	3%	7	3%	0	0%



本を読む場所については、小学生・中学生・高校生で、多い順に「自分の家」「学校」「学校の図書館（図書室）」となっており、学校の読書環境の整備が読書推進につながると考えられる。

9. 上尾市図書館に行ったことがありますか？

	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
よく行く	81	14%	8	2%	2	1%	0	0%
たまに行く	237	40%	72	21%	16	10%	4	25%
あまり行かない	145	24%	142	42%	19	12%	7	44%
行かない	134	22%	115	34%	117	76%	5	31%



10. 上の質問で「よく行く」、「たまに行く」と答えた人に聞きます。図書館に何をしに行きますか？（複数回答あり）

	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
本を借りる	267	69%	35	33%	5	20%	4	57%
本を読む	76	20%	27	26%	5	20%	1	14%
勉強する	29	7%	39	37%	12	48%	2	29%
Wi-Fi（ワイファイ）	1	0%	2	2%	2	8%	0	0%
講座	3	1%						
その他	13	3%	2	2%	1	4%	0	0%

11. 上の質問で「あまり行かない」、「行かない」と答えた人に聞きます。行けない理由は何ですか？（複数回答あり）

	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
他のことをしたいから	59	20%	126	40%	50	35%	2	15%
家や学校にある本を読むから	87	29%	79	25%	27	19%	4	31%
勉強や部活が忙しいから			71	23%	26	18%	5	38%
行く時間がないから	93	31%						
近くに図書館がないから	24	8%						
その他	37	12%	36	12%	39	27%	2	15%

12. 図書館でどんなイベントがあったら参加したいですか？（複数回答あり）

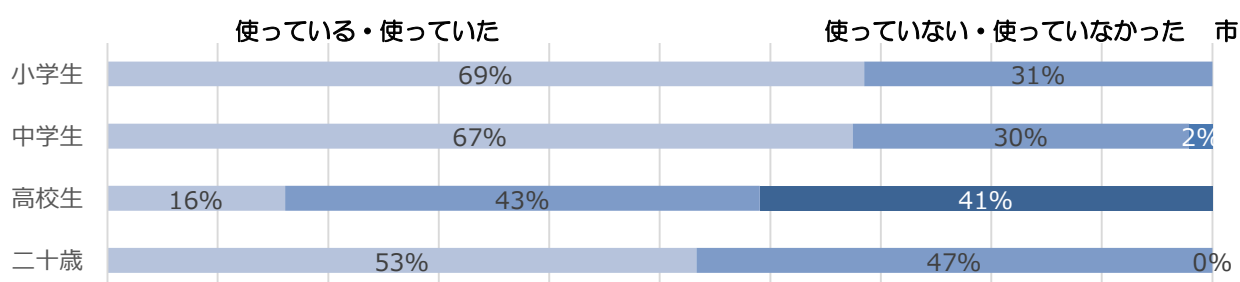
	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
おはなし会	41	7%						
体験図書館員	96	15%						
図書館探検	71	11%						
工作	179	29%						
かがく遊び	127	20%						
映画会	87	14%						
講演会			33	9%	35	23%	5	28%
ワークショップ			107	29%	47	32%	7	39%
ビブリオバトル			52	14%	14	9%	3	17%
読書会			127	35%	47	32%	3	17%
その他	22	4%	45	12%	6	4%	0	0%

図書館で参加したいイベントについては、中学生・高校生では多い順に「読書会」「ワークショップ」※高校生で同率、二十歳のつどい代表者では、「ワークショップ」「講演会」の順となっている。「ワークショップ」を行うことで青少年層の来館が見込まれる。

ここからは読書パスポートに関する質問になります。

1 3. 読書パスポートを使っていましたか？

	小学生		中学生		高校生		二十歳	
	総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
使っている（小学生）、使っていた（小学生以外）	409	69%	226	67%	24	16%	8	53%
使っていない（小学生）、使っていなかった（小学生以外）	188	31%	102	30%	64	43%	7	47%
小学生の時は市外に住んでいた（中学生）、小学生の時は市外だった（高校生、二十歳）			7	2%	61	41%	0	0%



1 4. 読書パスポートでよく使うページはどこですか？（複数回答あり）

	小学生		中学生	
	総数	割合	総数	割合
宝島スタンプラリー	42	8%	59	20%
まいぶつくすたんど	291	53%	81	28%
マイスターシート	90	16%	101	35%
フリースペース	32	6%	17	6%
おすすめの本	71	13%	28	10%
その他	27	5%	2	1%

1 5. 図書館のイベントに参加し、読書パスポートの宝島スタンプラリーにスタンプを押してもらったことはありますか？

	小学生		中学生	
	総数	割合	総数	割合
ある	246	42%	131	39%
ない	336	58%	201	61%

16. 読書パスポートの好きなところを教えてください。(自由記述)(小学生のみ)

●本体(44人)

- 〔例〕・いろいろなページがある
- ・おすすめの本が出ている
 - ・勉強になる
 - ・ゴブリンのクイズめいろ
 - ・キャラクターがかわいい
 - ・上尾市図書館のことがわかる

●カバー(5人)

- 〔例〕・もようがいい
- ・ポケットがついている

●カード(1人)

●スタンプラリー(30人)

- 〔例〕・おはなし会にいくとスタンプがもらえる

●まいぶっくすたんど(246人)

- 〔例〕・読んだ本のタイトル
- ・何冊読んだかがわかる
 - ・300冊書ける
 - ・読んだ本を友だちにみせられる
 - ・読んだ本をふりかえられる》

●マイスターシート(33人)

- 〔例〕・本の感想が書ける
- ・好きな本の記録ができる
 - ・読書感想文が書ける

●フリースペース(42人)

- 〔例〕・自由に書ける
- ・メモができる
 - ・絵がかける

●ない(16人)

●わからない(5人)

- 〔例〕・使っていないからわからない

●不明(23人)

17. 小学生や中学生に向けて、あなたのおすすめの本は何ですか。(自由記述)(高校生、二十歳のつどい代表者のみ)※回答件数が多数のため、いくつかピックアップして掲載しています。

「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」 汐見夏衛(5人)

「星の王子さま」 アントワーヌ・ド・サン=テグジュペリ(5人)

「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治（3人）
「はらぺこあおむし」 エリック・カール（3人）
『ハリー・ポッター』シリーズ J.K.ローリング（3人）
『ざんねんないきもの事典』シリーズ 今泉忠明（2人）
『捨て犬未来』シリーズ 今西乃子（2人）
『謎解きはディナーのあとで』シリーズ 東川篤哉（2人）
「あと少し、もう少し」 瀬尾まいこ
「きまぐれロボット」 星新一
『5分後に意外な結末』シリーズ 桃戸ハル
「里見家の宝をさがせ!」 小森香折
「西の魔女が死んだ」 梨木香歩
「人間失格」 太宰治
「左手一本のシュート」 島沢優子
「まてまてー!」 宮西達也
「窓際のトットちゃん」 黒柳徹子
「目の見えない犬ダン」 大西伝一郎
『もったいないばあさん』シリーズ 真珠まりこ
「弱くても勝てます」 高橋秀実

18. 上尾市図書館では、改修工事を行い、本館のリニューアルを予定しています。改修後の図書館にどのようなスペースやサービスを望みますか？（例えば、ゆっくり読書をする、学習できる、会議室や集会室など）

カテゴリー	小学生	中学生	高校生	二十歳
①イメージ	32	17	7	
②本を読む	198	47	14	2
③勉強・学習・自習	118	163	79	7
④会話できる	15	12	2	2
⑤飲食	12	22	3	3
⑥集会室・フリースペース	18	21	7	
⑦工作・PCできる・視聴覚	15			1
⑧イベント・遊び	38	2	1	
⑨個室	4	6	1	
⑩その他	97	23	5	
⑪意見無・わからない	9	10	8	1
合計	556	323	127	16

＜回答一部抜粋＞

- ① イメージ
 - ・おちついて読んだりやすめたりする（小学生）
 - ・ゆっくりできる場所（高校生）
- ② 本を読む
 - ・静かに読書ができるスペース（中学生）
 - ・一人で本を読める空間が欲しい、個室など（高校生）
 - ・ソファ席などでゆったり本を読めるところ（二十歳）
- ③ 勉強・学習・自習
 - ・本を見ながらべんきょうできるスペース（小学生）
 - ・静かに学習できる場所（中学生）
- ④ 会話できる
 - ・会話しながら読書できる。少し騒がしくなっても OK なスペースがあると良いと思います。友達同士であの本良いよーよか話せたり、まだ子どもが小さいからうるさくしちゃいそうではないなと思ってるお母さんとお子さんが気軽に行けたりする、防音のスペース（二十歳）
- ⑤ 飲食
 - ・みんながおしゃべりしたりごはんが食べられるスペース（小学生）
 - ・コワーキングスペースでカフェを組み合わせたようなスペース（二十歳）
- ⑥ 集会室・フリースペース
 - ・グループでいろんなものを考えたりするスペース（小学生）
 - ・老若男女問わずに憩いの場となれるようなスペース（高校生）
- ⑦ 工作・PC できる・視聴覚
 - ・工作や絵を書くスペース（小学生）
 - ・PC が使用できるスペースが欲しい（二十歳）
- ⑧ イベント・遊び
 - ・イベントスペース、えい画会・おはなし会・工作スペース（小学生）
 - ・ゲームする場所（中学生）
- ⑨ 個室
 - ・この人は、こんな本を読んでいることが、きづかれなくて本を読んだり、べんきょうしたりできるスペースがほしいです（小学生）
 - ・個室とか一人になれるスペース（中学生）
- ⑩ その他
 - ・もう少しきれいなトイレがあるといい（中学生）
 - ・マンガをたくさんおいてほしい（高校生）

～読み聞かせのまち あげお～

あげお子ども読書プラン

《第4次上尾市子どもの読書活動推進計画》

令和 年（ 年） 月

発行：上尾市教育委員会

